

令和7年度第3回 インターネット都政モニターアンケート

「東京の農業」

調 査 結 果



調 査 実 施 の 概 要

1 アンケートテーマ

東京の農業

2 アンケート目的

社会情勢を踏まえた東京の農業に対する都民の意識を把握し、東京の農業の振興に向けた有効な施策展開の参考とする。

3 アンケート期間

令和7年9月4日（木曜日）から9月11日（木曜日）まで

4 アンケート方法

インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページに回答を入力する。

5 インターネット都政モニター数

500人

6 回答者数

494人

7 回答率

98.8%

東京の農業

1 調査項目

- Q1 東京の農業を身近に感じた経験
- Q2 東京産の農産物の認知度
- Q3 農産物認証の認知度
- Q4 東京産の農産物の購入意向
- Q5 東京産の農産物の購入方法
- Q6 東京産の農産物で重視するもの
- Q7 エシカル消費の意識
- Q8 食育活動への関心
- Q9 農作業の体験への経験
- Q10 農作業の体験への関心
- Q11 農作業の体験への参加ニーズ
- Q12 職業としての東京の農業のイメージ
- Q13 農業の有する多面的機能について
- Q14 東京の農業・農地についての意向
- Q15 東京の農業・農地に期待する役割
- Q16 東京の農地の保全
- Q17 東京都の農業振興施策
- Q18 東京の農業に関する意見（自由意見）

2 アンケート回答者属性

		モニター 人 数	回 答		
			人 数	構成比	率
全 体		500	494	－	98.8
性 別	男性	250	249	50.4	99.6
	女性	250	245	49.6	98.0
年 代 別	18・19歳	10	10	2.0	100.0
	20代	71	68	13.8	95.8
	30代	75	75	15.2	100.0
	40代	88	88	17.8	100.0
	50代	89	88	17.8	98.9
	60代	61	59	11.9	96.7
	70歳以上	106	106	21.5	100.0
職 業 別	自営業	32	32	6.5	100.0
	常勤	241	239	48.4	99.2
	パート・アルバイト	59	57	11.5	96.6
	主婦・主夫	71	71	14.4	100.0
	学生	25	24	4.9	96.0
	無職	72	71	14.4	98.6
居住地域別	東京都区部	344	339	68.6	98.5
	東京都市町村部	156	155	31.4	99.4

※ 集計結果は百分率（％）で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、合計が100.0％にならないものがある。

※ n（number of cases）は、比率算出の基数であり、100％が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・（MA）＝いくつでも選択、（3MA）＝3つまで選択、（2MA）＝2つまで選択

東京の農業は、都民の食卓に新鮮で安全安心な農産物※を日々供給し、生活に彩りを与えています。その生産基盤である農地は、環境保全や防災など多面的な機能を有する大切な緑の空間です。

しかし近年は、農業者の高齢化や担い手の不足、相続に伴う農地の減少が起きています。都内の総農家数は令和2年に9,567戸となり、この30年でほぼ半減、10年間で27%減少しています。また、令和2年の東京の農地面積は6,530haで、平成22年度からの10年間で、1,140haの農地が失われました。他にも異常気象等、東京の農業は多くの課題に直面しています。

今回のアンケートは、東京都は社会情勢の変化にあわせた新たな視点を取り込み、農業をより魅力的な産業としていくために、都政モニターの皆さまにご意見をお伺いします。

※農産物：農業によって得られる生産物（米、野菜、果物、肉、牛乳、卵など）

参考【農地と農業の担い手】

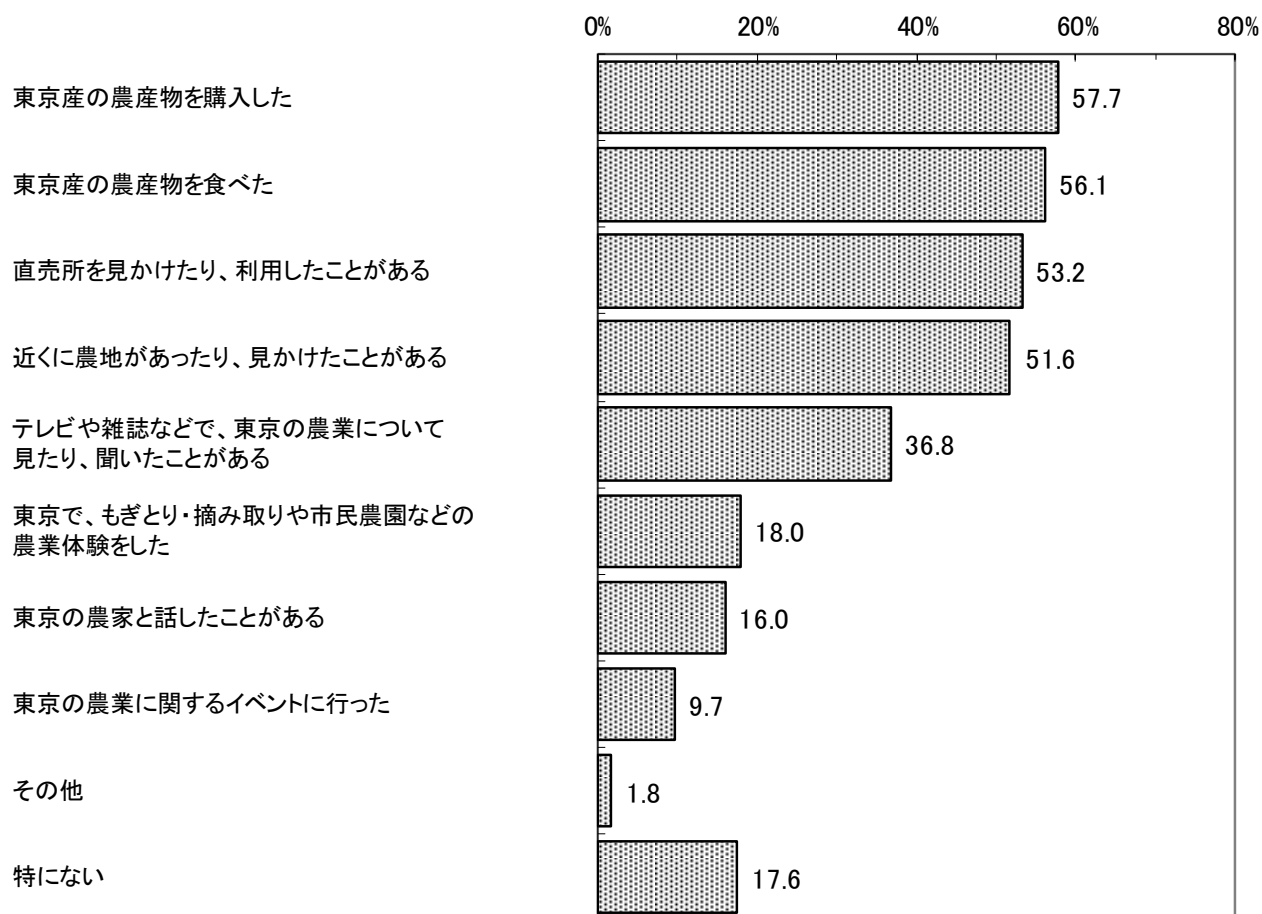
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/hourin/tokyo/history/ninaite>



東京の農業を身近に感じた経験

Q1 東京の農業を身近に感じたことがありますか。経験したことを次の中からいくつでも選んでください。

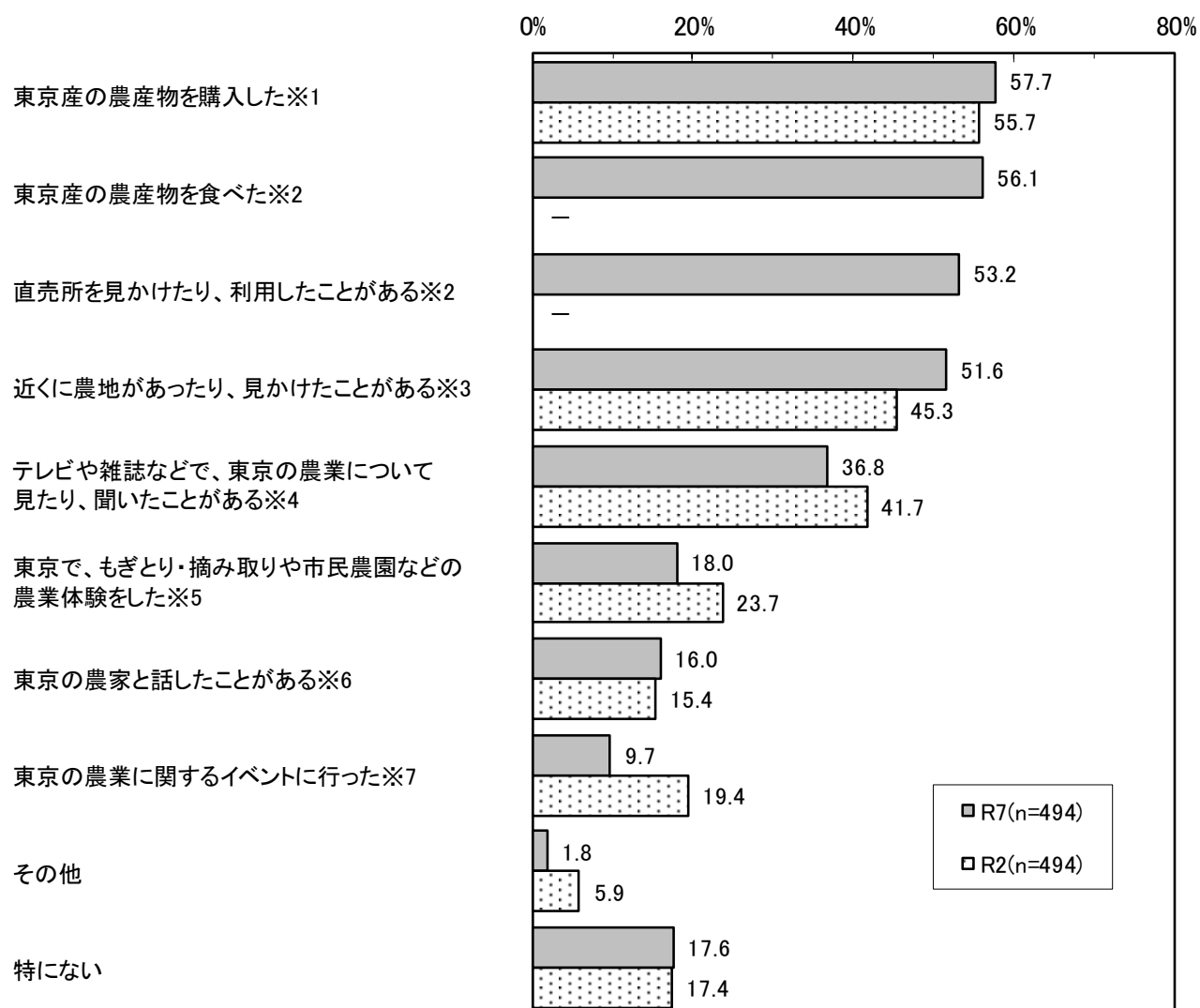
MA (n=494)



【調査結果の概要】

東京の農業を身近に感じた経験について聞いたところ、「東京産の農産物を購入した」(57.7%)、「東京産の農産物を食べた」(56.1%)、「直売所を見かけたり、利用したことがある」(53.2%)、などと続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「東京産農畜産物を購入したことがある」で集計

※2 令和2年度は選択肢なし

※3 令和2年度は「近くに農地がある」で集計

※4 令和2年度は「マスコミなどで東京の農業の話題を聞いたことがある」で集計

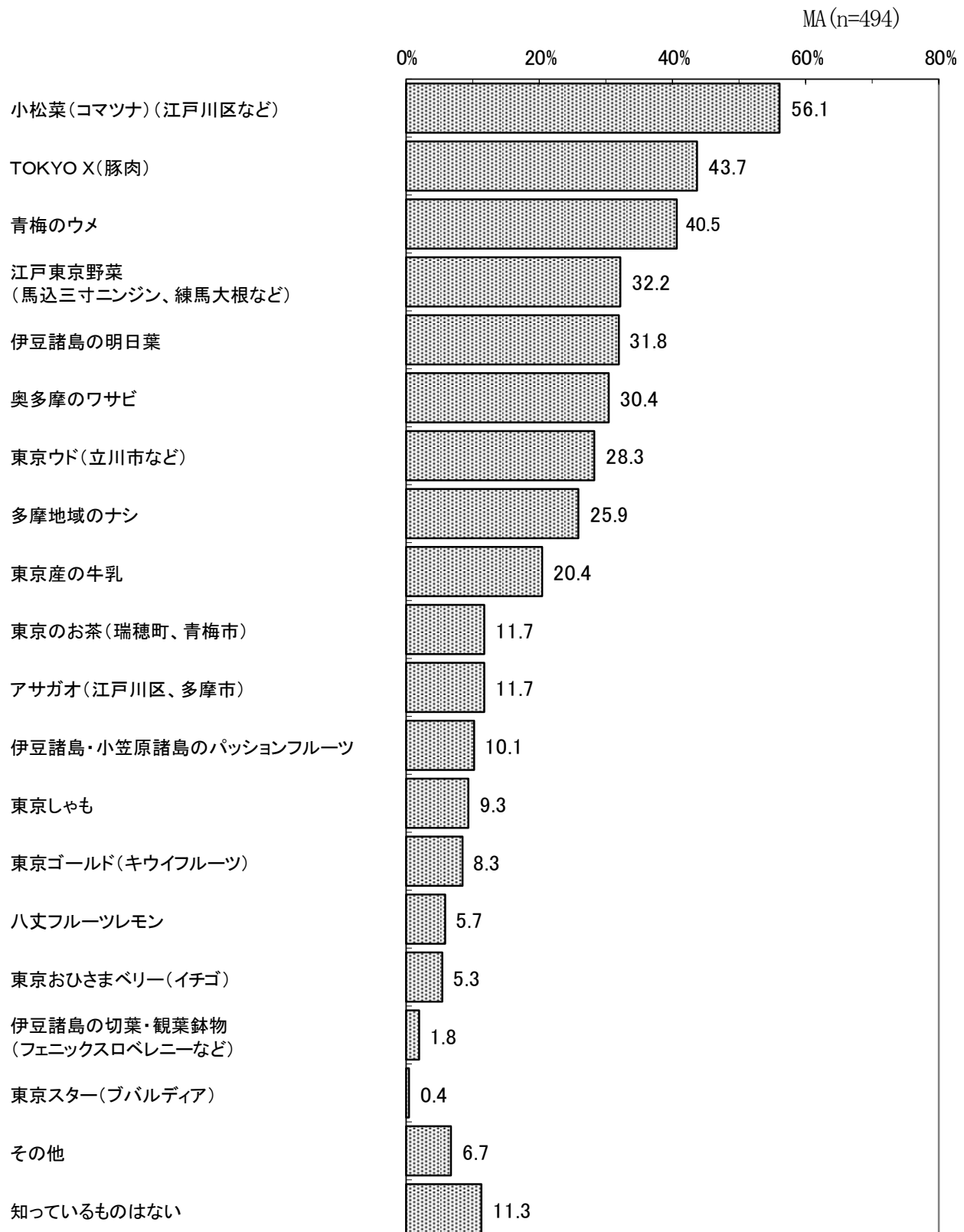
※5 令和2年度は「東京において、もぎとり・摘み取り農園や市民農園などで、農業体験をしたことがある」で集計

※6 令和2年度は「東京の農業者と話したことがある」で集計

※7 令和2年度は「東京の農業関係イベントに行ったことがある」で集計

東京産の農産物の認知度

Q2 東京には、特産品や東京ブランドとなっている農産物が多数あります。知っているものをいくつか選んでください。



【調査結果の概要】

東京産の農産物の認知度について聞いたところ、「小松菜(コマツナ)」(56.1%)が5割半ばと最も高く、以下、「TOKYO X(豚肉)」(43.7%)、「青梅のウメ」(40.5%)などと続いている。

参考：【TOKYO★ブランド 農畜産物】

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/tokyo/brand>

【とうきょうを食べよう野菜・果樹ガイド】

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/sangyo-rodo/yasaikajuguide>

【東京産の農産物例】



小松菜(コマツナ)



青梅のウメ



1

江戸東京野菜 (馬込三寸にんじん)



伊豆諸島の明日葉



奥多摩のワサビ



東京ウド



多摩地域のナシ



アサガオ



伊豆諸島・小笠原諸島
パッションフルーツ



東京しゃも



東京ゴールド（キウイフルーツ）



八丈フルーツレモン



東京おひさまベリー（いちご）



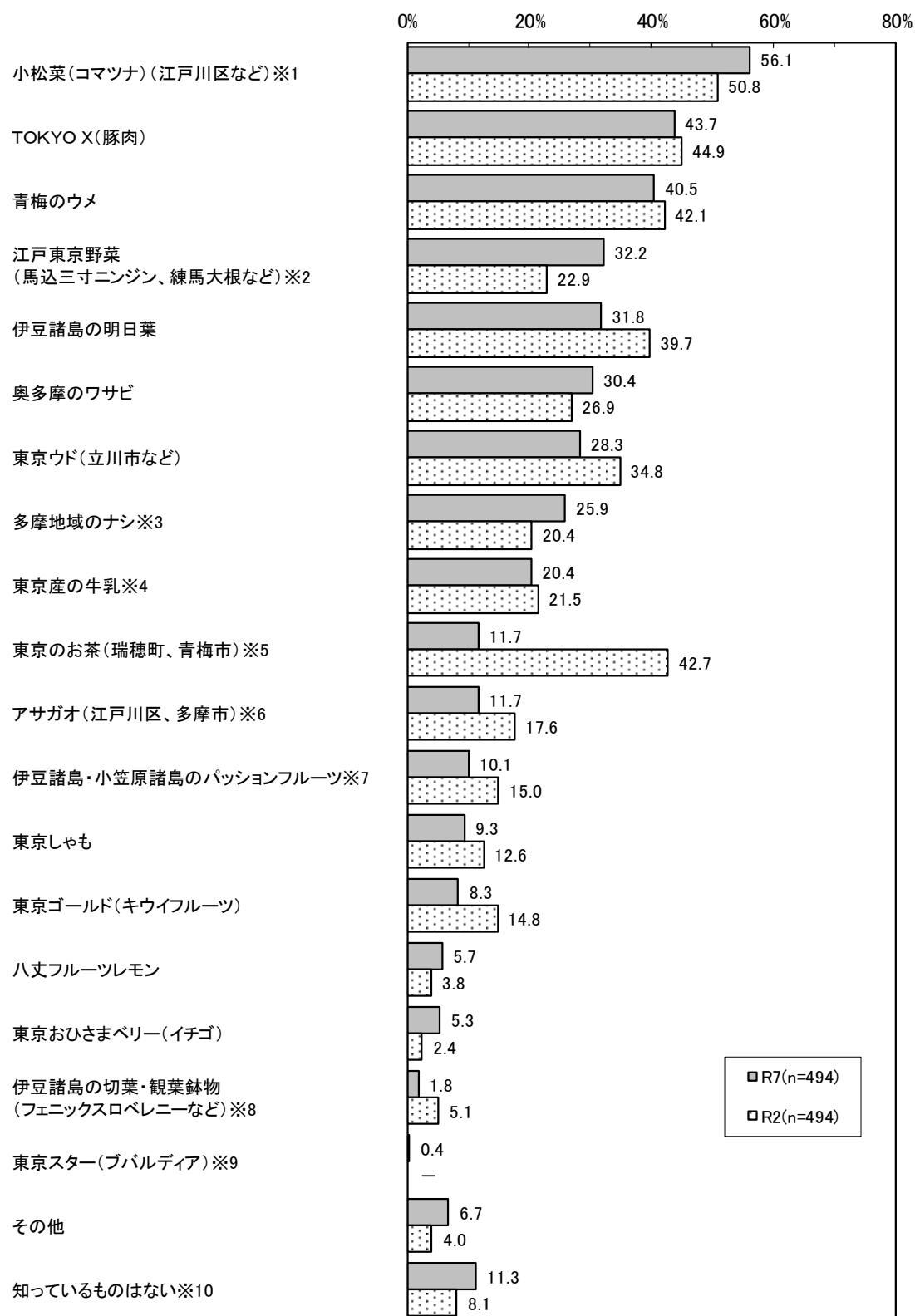
伊豆諸島の切葉・観葉鉢物
（フェニックスロベレニーなど）

※東南アジア原産のヤシ科フェニックス属の
常緑低木で、成木は鉢物に、
切り花は添え葉に用いられる。



東京スター（ブサルディア）
※細長い筒状の白い花が十文字に開き、
20～30輪ほど固まって咲く、
伊豆大島特産の切花

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「江戸川(小松川地域)発祥のコマツナ」で集計

※2 令和2年度は「江戸東京野菜(上記4品目以外)」で集計

※3 令和2年度は「東京産のナシ」で集計

※4 令和2年度は「東京牛乳」で集計

※5 令和2年度は「東京狭山茶」で集計

※6 令和2年度は「江戸川のアサガオ」で集計

※7 令和2年度は「小笠原のパッションフルーツ」で集計

※8 令和2年度は「伊豆諸島の切葉・観葉鉢物」で集計

※9 令和2年度は選択肢なし

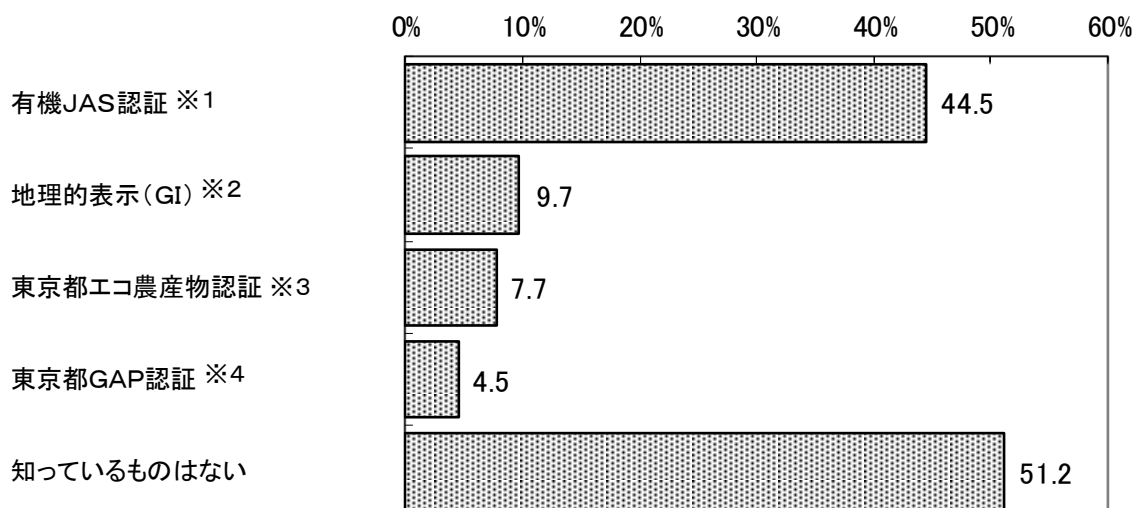
※10 令和2年度は「どれも知らない」で集計

農産物認証の認知度

Q3 東京産の農産物の中には、食品の安全確保や農業の持続的発展の観点から、様々な認証や登録を受けているものがあります。

次に掲げる認証や登録について、知っているものをすべて選んでください。

MA (n=494)



※1：有機JAS認証

農薬や化学肥料に頼らず、国が定めた基準に従って生産された有機食品であることを証明する制度



認証マーク

※2：地理的表示 (GI)

特定の地域を生産地として、その土地の気候や風土と結びついた品質や歴史を持つ製品の名称を登録する制度



GIマーク

※3：東京都エコ農産物認証制度

化学合成農薬と化学肥料を削減して作られる農産物を都が認証する制度



認証マーク

※4：東京都GAP認証

GAP (ギャップ) 「Good (良い) Agricultural (農業) を Practice (実践) する」の略。農畜産物を生産する工程で、生産者が守るべき管理基準と、その取り組みのこと。東京都GAPは、農林水産省の「GAPガイドライン」に準拠し、都市農業の特徴を反映した東京都独自の認証



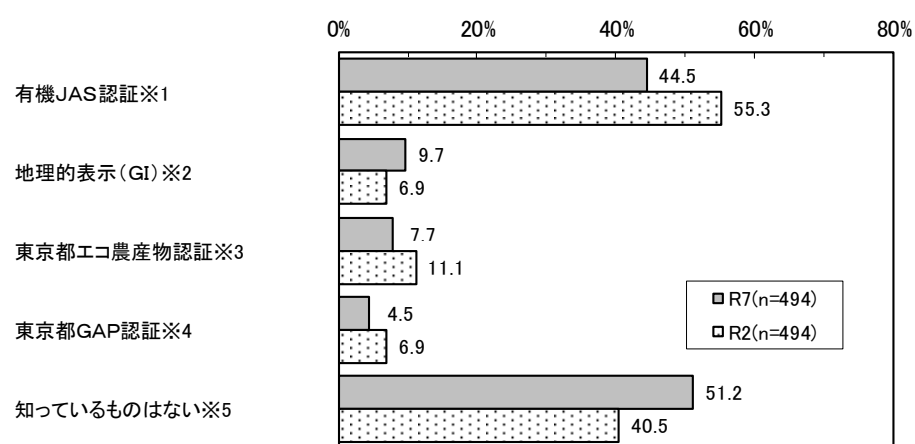
認証マーク

【調査結果の概要】

東京産の農産物の認証や登録について知っているものを聞いたところ、「有機JAS認証」(44.5%)が4割半ばと最も高く、「地理的表示 (GI)」(9.7%)、「東京都エコ農産物認証」(7.7%) などと続いている。

一方、「知っているものはない」(51.2%)は、5割を超えている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「JAS法に基づく有機JAS規格で生産された農畜産物・加工品を認証する「有機JAS認証」」で集計

※2 令和2年度は「生産方法や生産地の特性が農畜水産物の品質に結びついている製品の名称を知的財産として登録する「地理的表示(GI)保護」」で集計

※3 令和2年度は「化学合成農薬と化学肥料を削減して栽培された農産物を認証する「東京都エコ農産物認証」」で集計

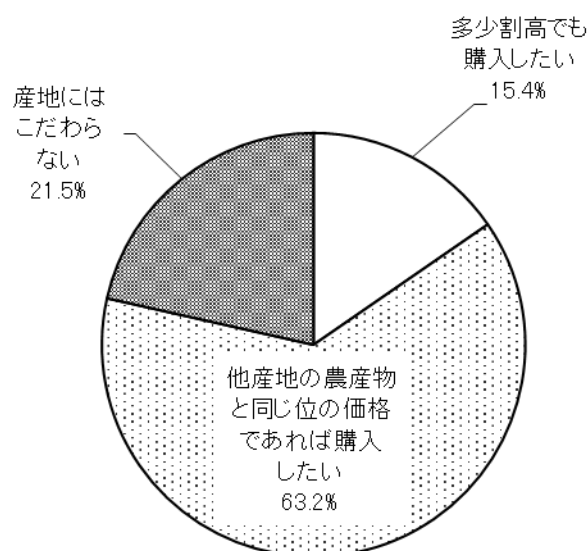
※4 令和2年度は「農畜産物生産に係る食品安全、環境保全、労働安全等を確保するための「東京都GAP認証」」で集計

※5 令和2年度は「どれも知らない」で集計

東京産の農産物の購入意向

Q 4 地元や東京産の農産物を購入したいと思いますか。

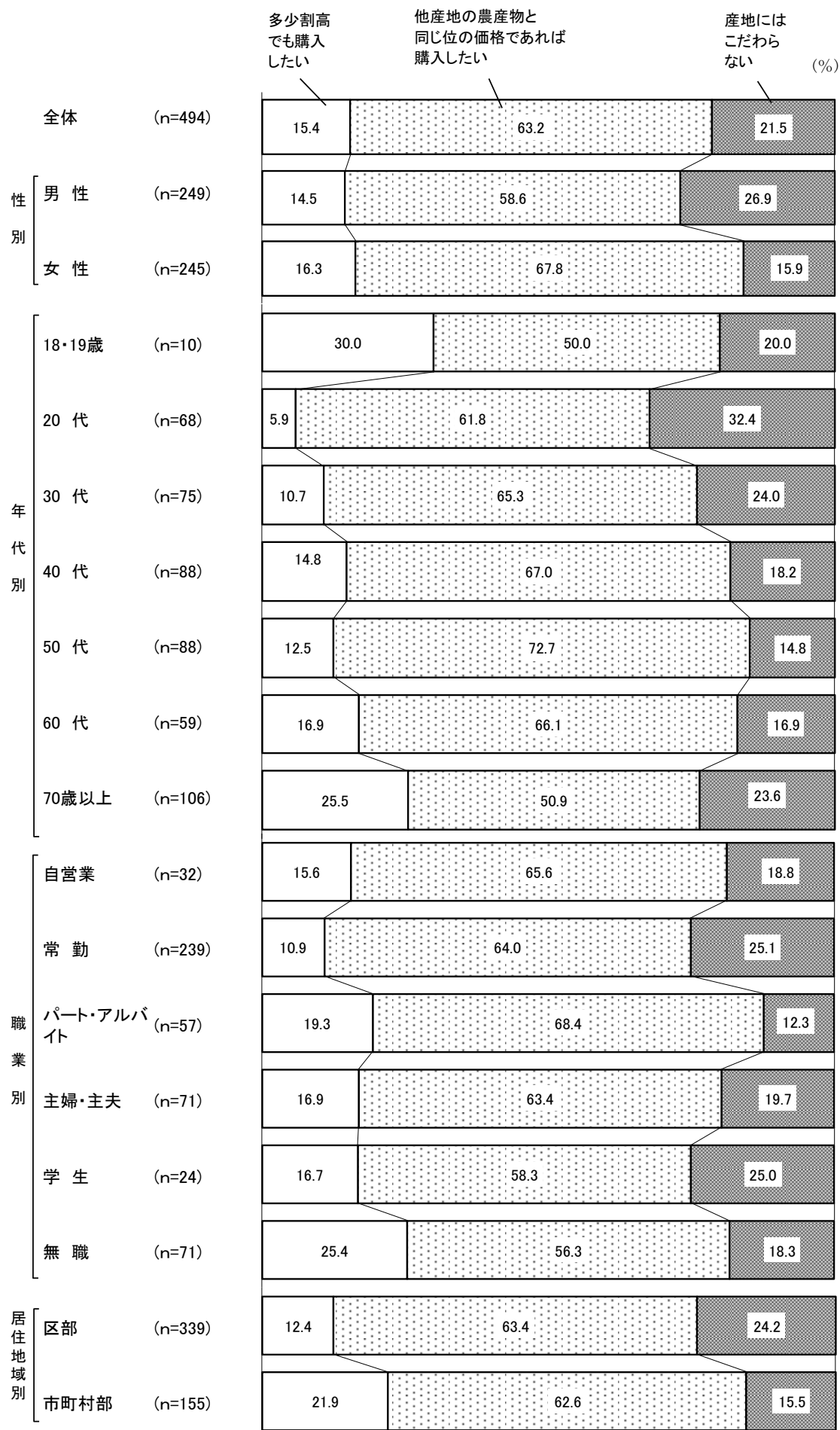
(n=494)



【調査結果の概要】

東京産の農産物の購入意向について聞いたところ、「他産地の農産物と同じ位の価格であれば購入したい」（63.2%）が6割を超えて最も高く、以下、「産地にはこだわらない」（21.5%）、「多少割高でも購入したい」（15.4%）だった。

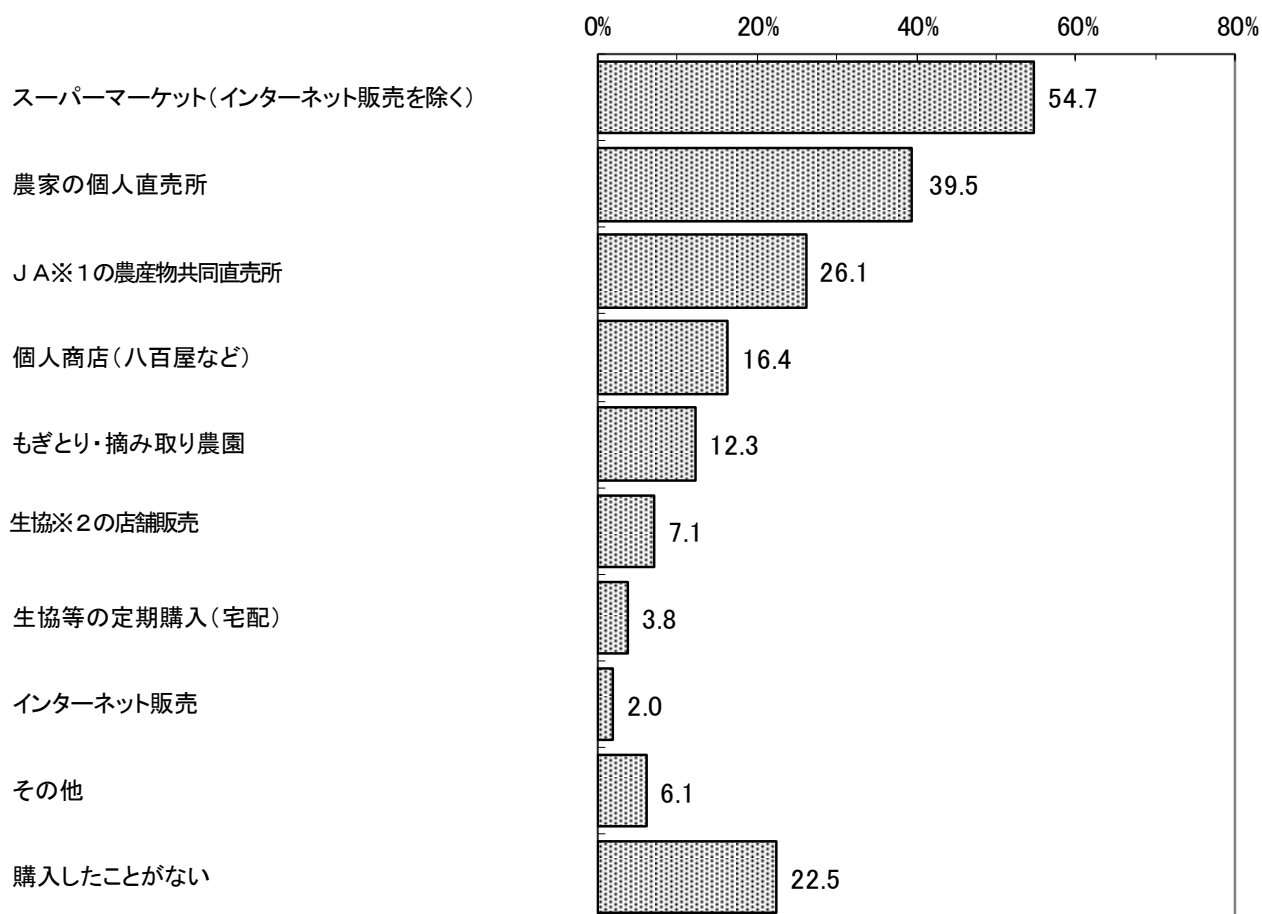
◎東京産の農産物の購入意向（属性別）



東京産の農産物の購入方法

Q 5 東京産の農産物を購入したことがありますか。購入したことがある場合、どこで購入しましたか。次の中からいくつでも選んでください。

MA (n=494)



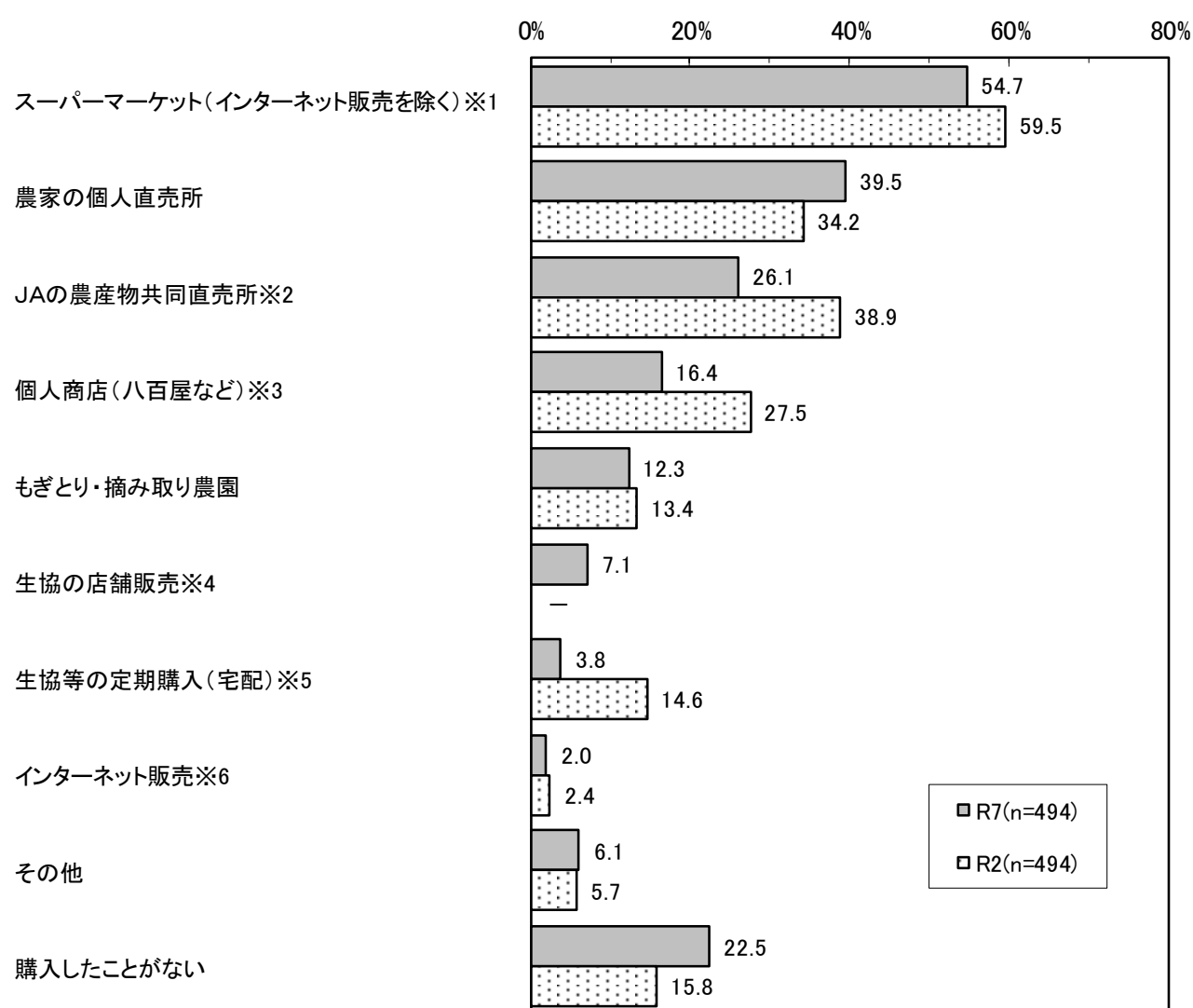
※1 J A(農業協同組合) : 農家の営農と生活を高めることを目的組織された協同組合

※2 生協(生活協同組合) : 消費者一人ひとりがお金(出資金)を出し合い組合員となり、協同で運営・利用する組織

【調査結果の概要】

東京産の農産物の購入方法について聞いたところ、「スーパーマーケット(インターネット販売を除く)」(54.7%)が5割半ばで最も高く、以下、「農家の個人直売所」(39.5%)、「J Aの農産物共同直売所」(26.1%)などと続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「スーパーなどの量販店」で集計

※2 令和2年度は「JA(農協)等の農産物共同直売所」で集計

※3 令和2年度は「青果店」で集計

※4 令和2年度は選択肢なし

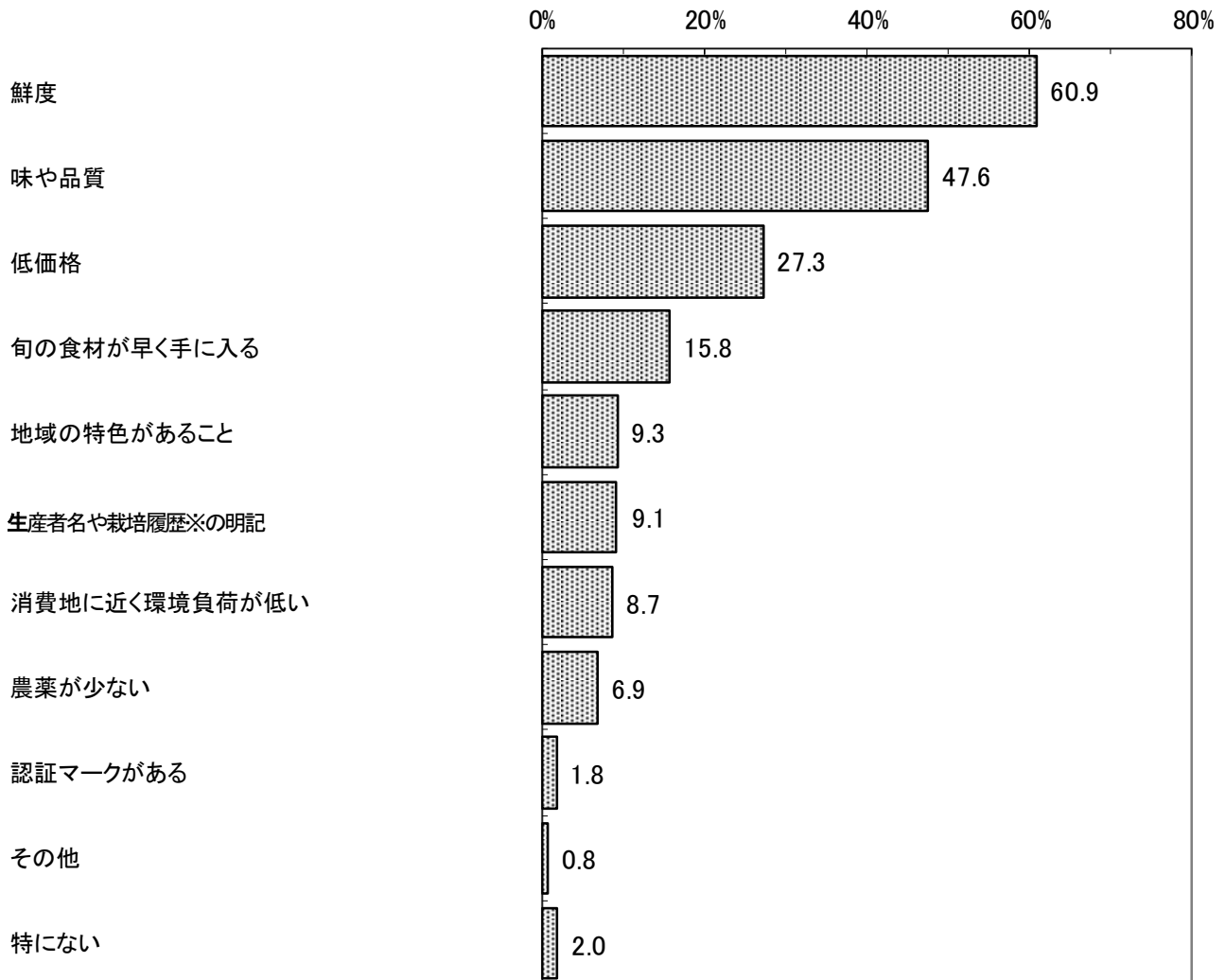
※5 令和2年度は「農産物の宅配(生協や個人)」で集計

※6 令和2年度は「通信販売(eコマースなど)」で集計

東京産の農産物で重視するもの

Q 6 東京産の農産物を購入する場合、何か重視することはありますか。次の中から2つまで選んでください。購入したことがない方は、今後購入するとしたら何を重視しますか。

2MA (n=494)

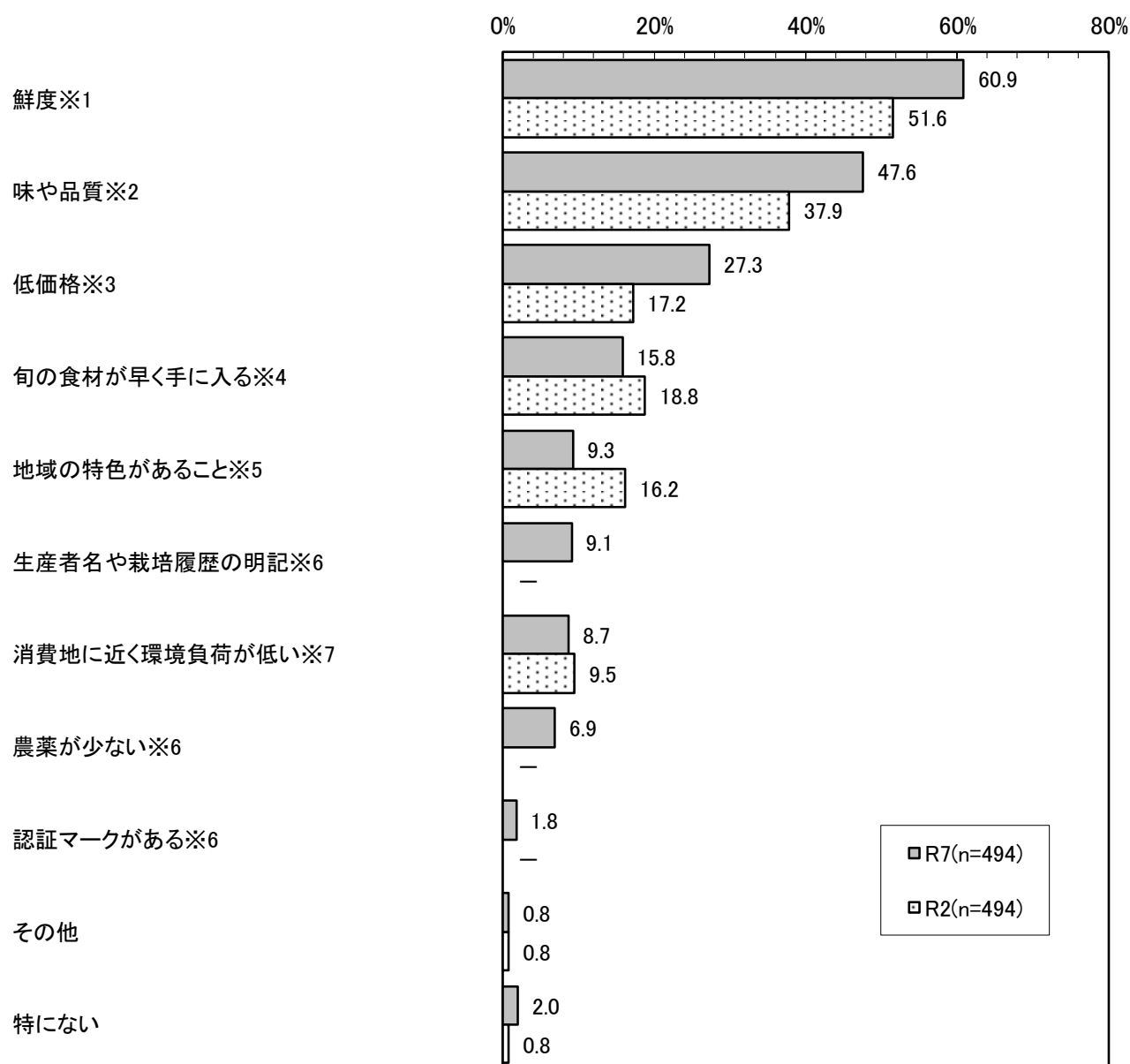


※栽培履歴：種まきや収穫までに行われた作業内容を記録したもの

【調査結果の概要】

東京産の農産物を購入する場合、重視するものを聞いたところ、「鮮度」(60.9%)が6割を超え最も高く、以下、「味や品質」(47.6%)、「低価格」(27.3%)などと続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「新鮮であること」で集計

※2 令和2年度は「味や品質が良いこと」で集計

※3 令和2年度は「価格が安いこと」で集計

※4 令和2年度は「旬や季節感があること」で集計

※5 令和2年度は「地域ならではの特色があること」で集計

※6 令和2年度は選択肢なし

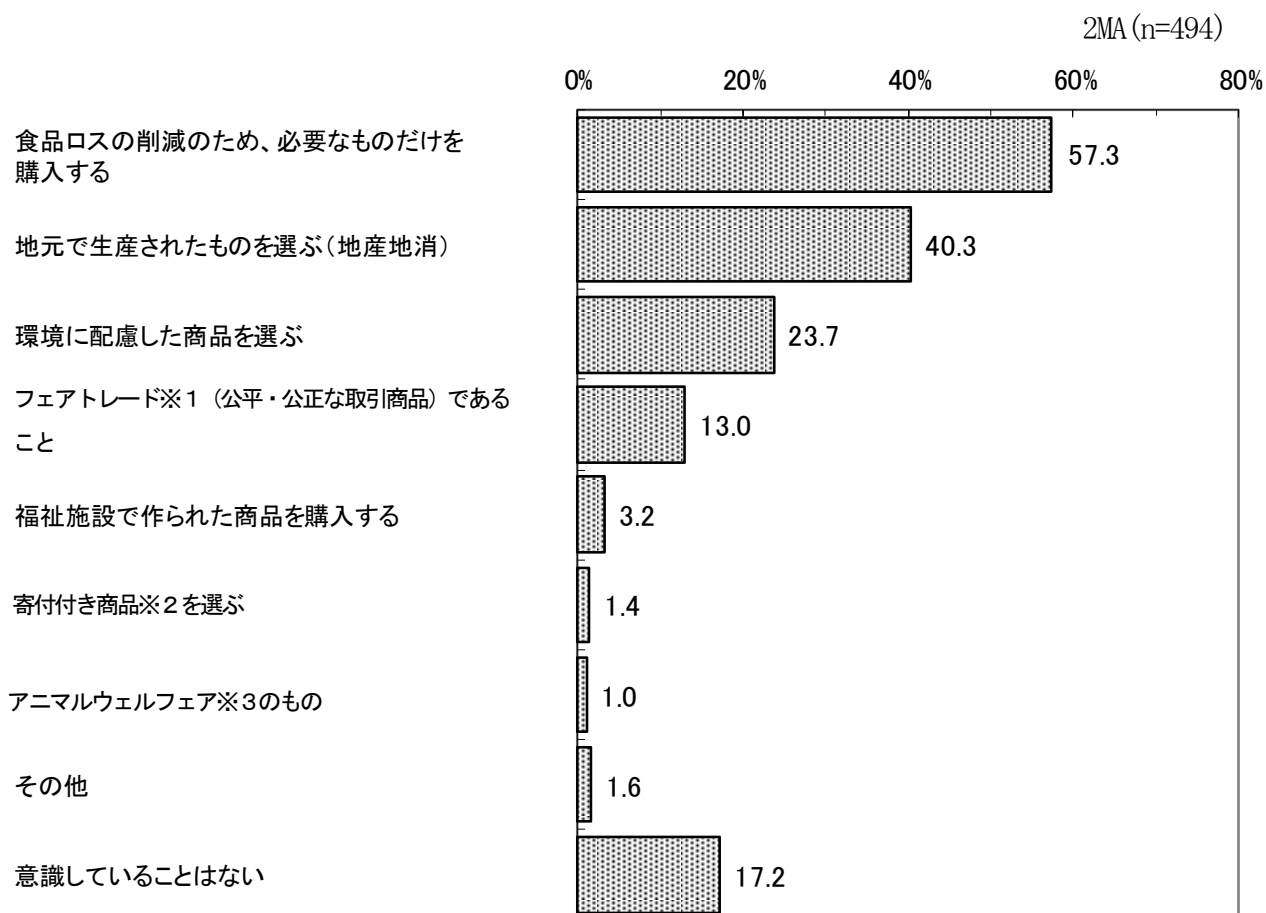
※7 令和2年度は「輸送距離が短いので環境負荷が低いこと」で集計

エシカル消費の意識

買い物の際に、人や社会、環境に配慮して商品を選ぶことを「エシカル消費」といいます。



Q 7 農産物を購入する際、エシカル消費について意識することはありますか。次の中から2つまで選んでください。



※1 フェアトレード：発展途上国で生産物を作る人が自立して暮らしていけるよう、適正な値段で商品を買うしくみ

※2 寄付付き商品：商品の購入代金の一部が、社会貢献活動や慈善団体に寄付される仕組みを持つ商品

※3 アニマルウェルフェア：快適な環境で飼育することにより家畜（牛、豚、鶏など）へのストレスや疾病を減らすこと

【調査結果の概要】

農産物を購入する際、エシカル消費について意識することがあるか聞いたところ、「食品ロスの削減のため、必要なものだけを購入する」(57.3%) が6割近くで最も高く、以下、「地元で生産されたものを選ぶ(地産地消)」(40.3%)、「環境に配慮した商品を選ぶ」(23.7%) などと続いている。

食育活動への関心

食育とは、子供をはじめあらゆる世代の人々が、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、生涯にわたって健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。

参考【とうきょうの恵み TOKYO GROWN】

<https://tokyogrown.jp/>

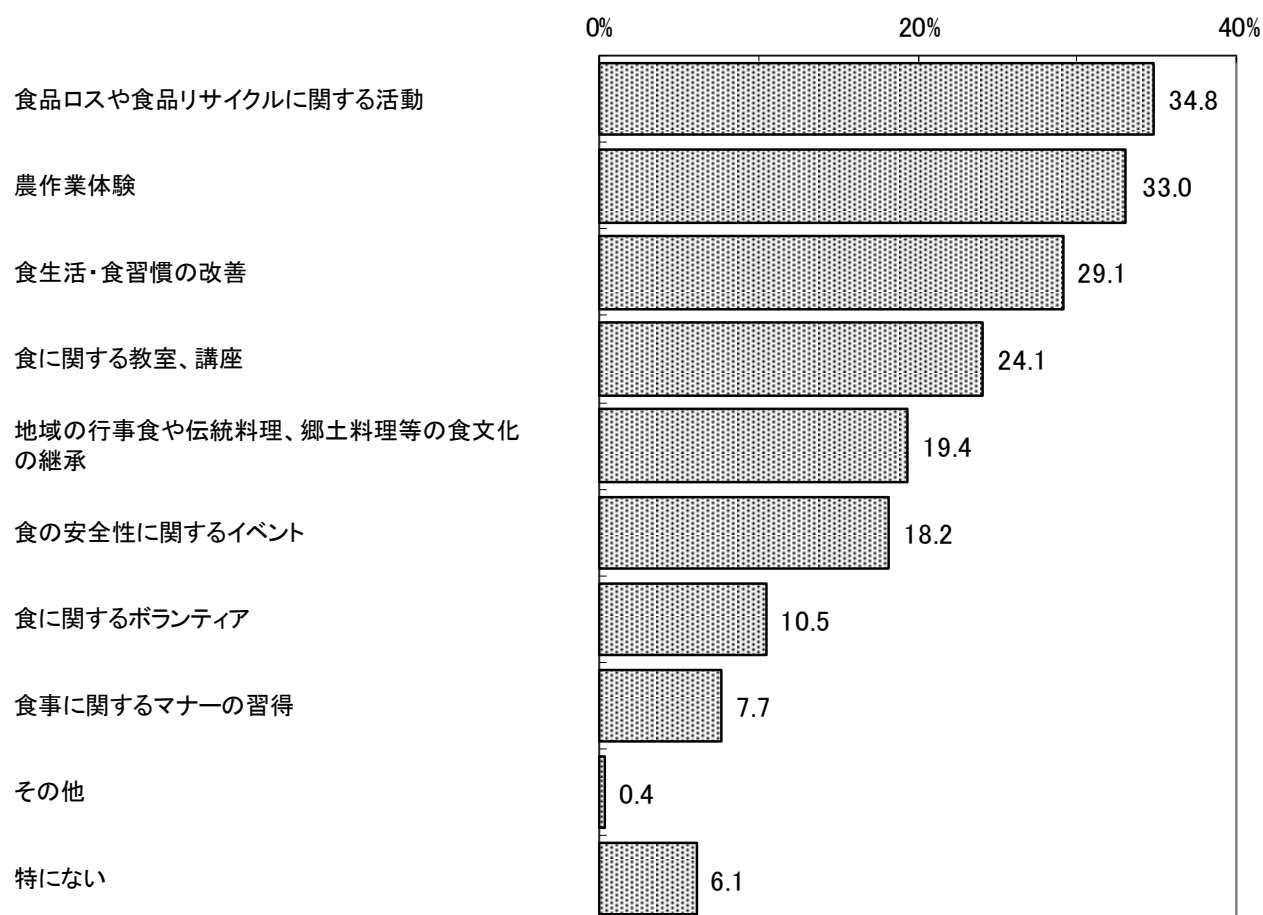
参考【東京都食育推進計画】

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/basic/nourin/shokuiku>



Q 8 食育活動について次のことに関心はありますか。次の中から2つまで選んでください。

2MA (n=494)



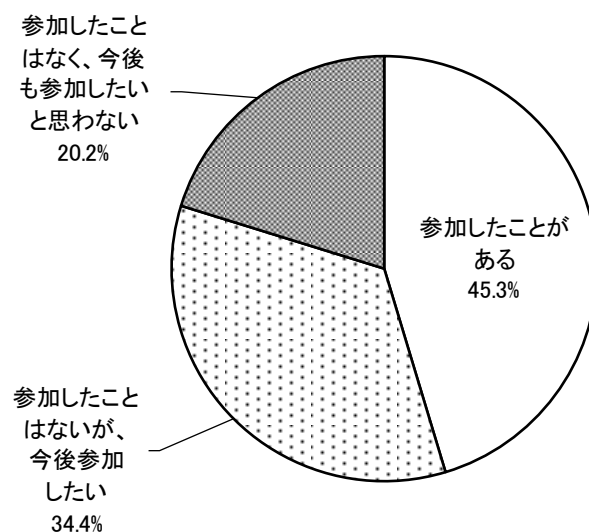
【調査結果の概要】

食育活動で関心があることを聞いたところ、「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」(34.8%)、が3割半ばで最も高く、以下、「農作業体験」(33.0%)、「食生活・食習慣の改善」(29.1%)などと続いている。

農作業の体験への経験

Q 9 農作業の体験（田や畑で野菜の種まきや収穫）に参加したことはありますか。

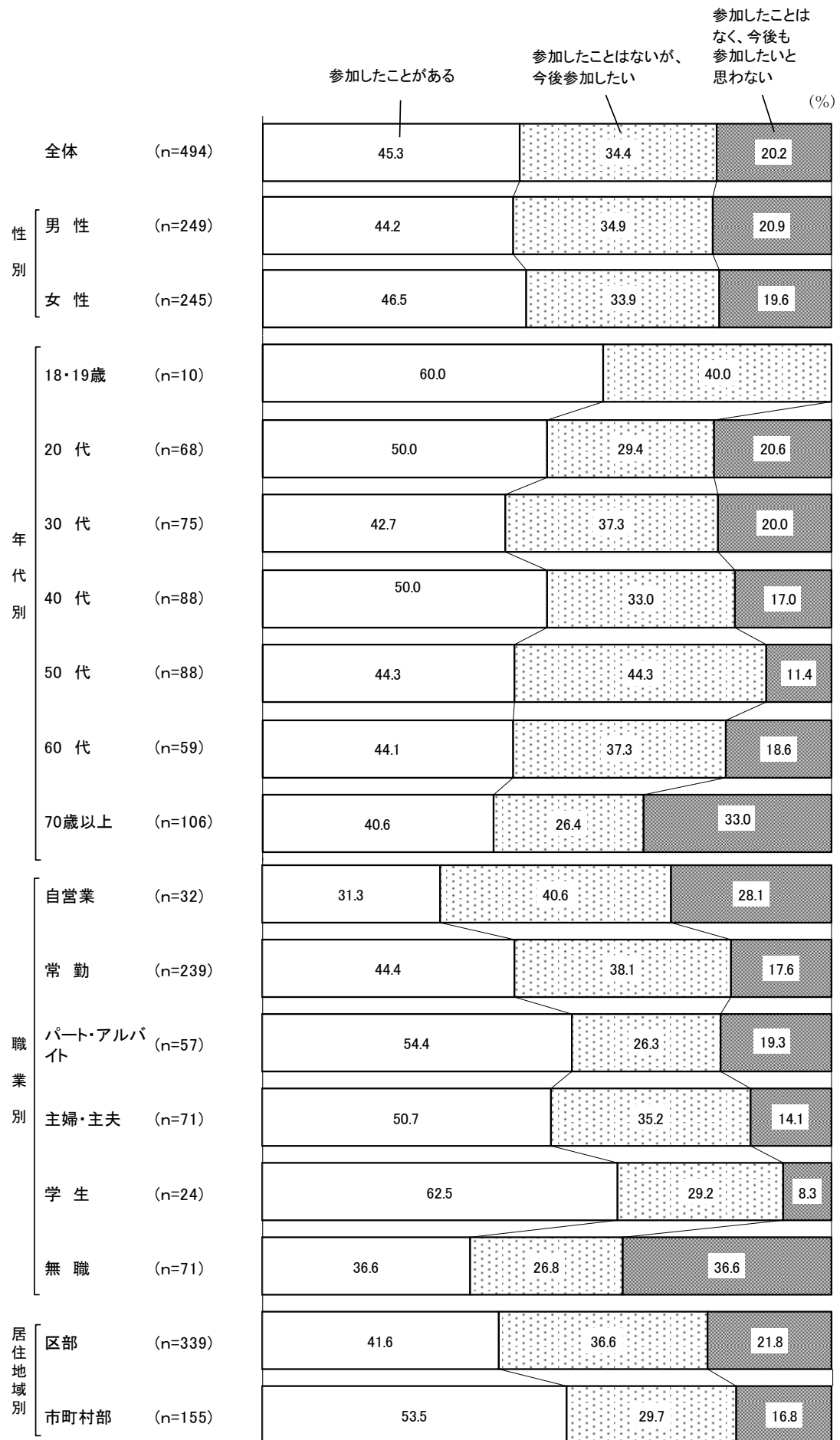
(n=494)



【調査結果の概要】

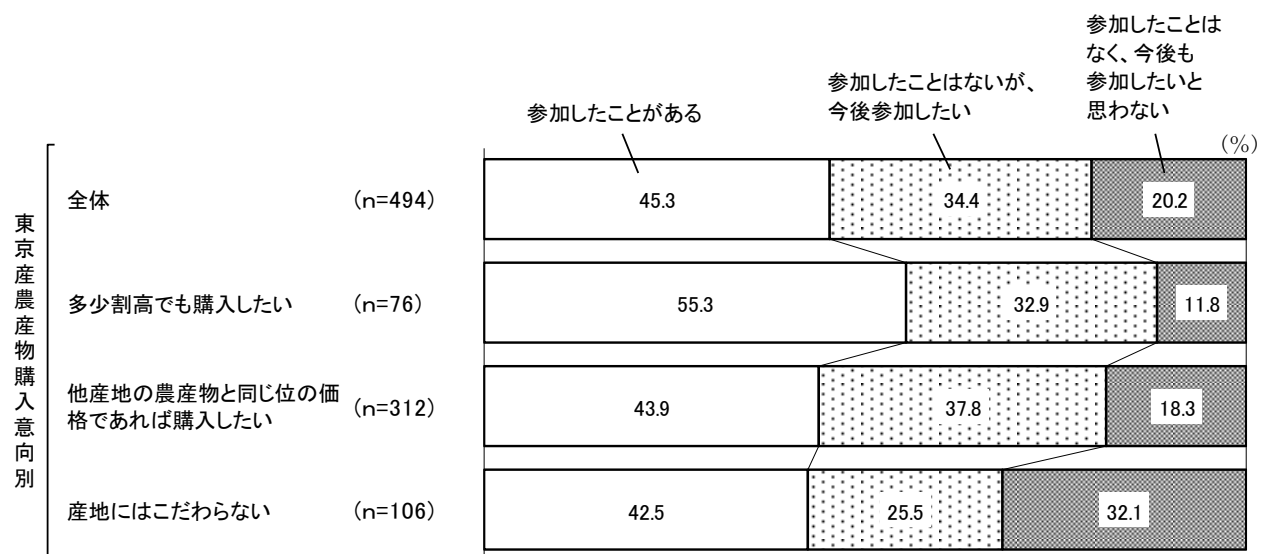
農作業の体験に参加したことがあるか聞いたところ、「参加したことがある」(45.3%)が4割半ばと最も高く、以下、「参加したことはないが、今後参加したい」(34.4%)、「参加したことはなく、今後も参加したくないと思わない」(20.2%)だった。

◎農作業の体験への経験（属性別）



※未回答の選択肢については、0%表示を省略

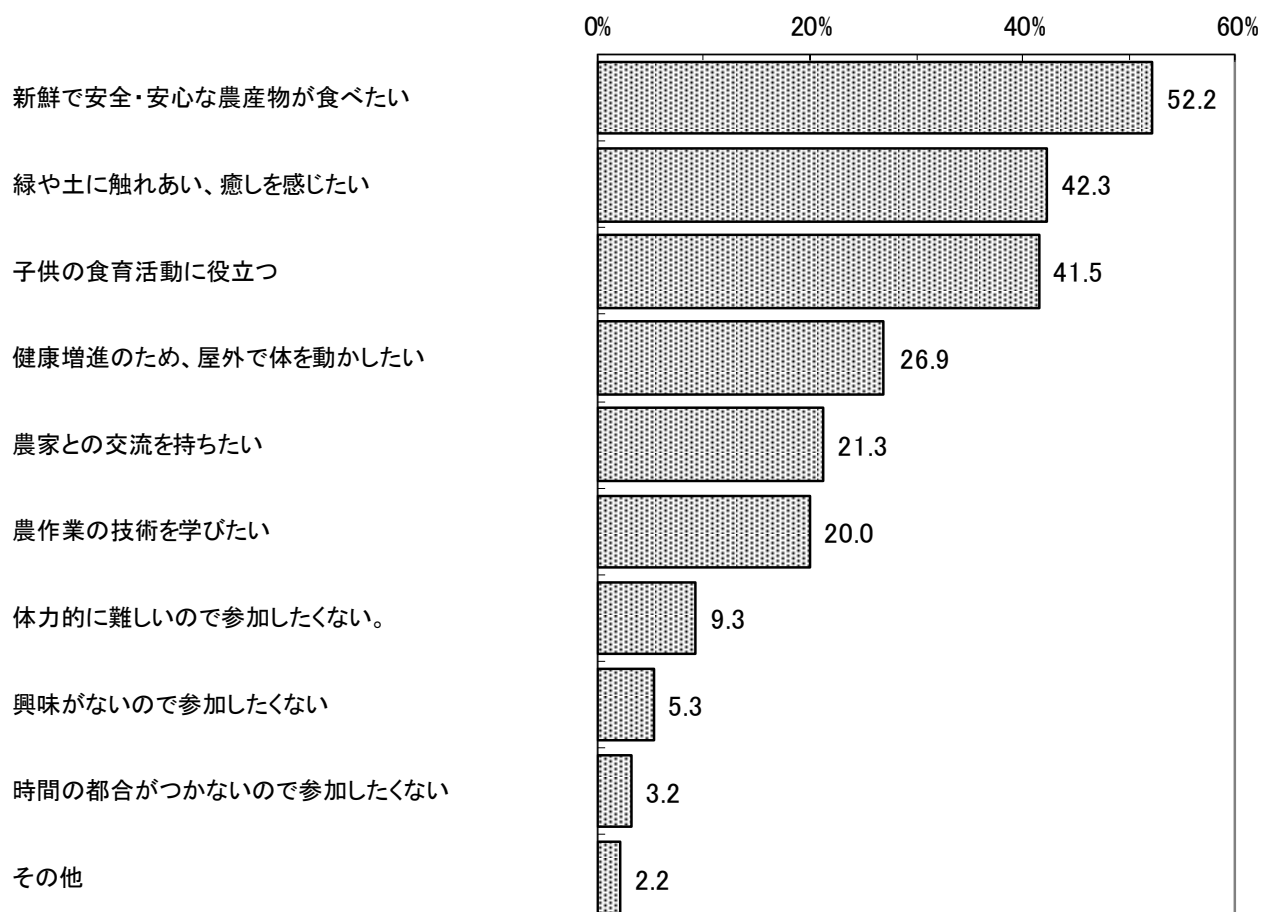
◎農作業の体験への経験（東京産の農産物の購入意向別：Q 4）



農作業の体験への関心

Q10 農作業の体験についてどう思いますか。あなたの考えをいくつでも選んでください。

MA (n=494)



参考【東京 de 収穫体験フェスティバル】

<https://www.ethical-action.tokyo/news/4676/>

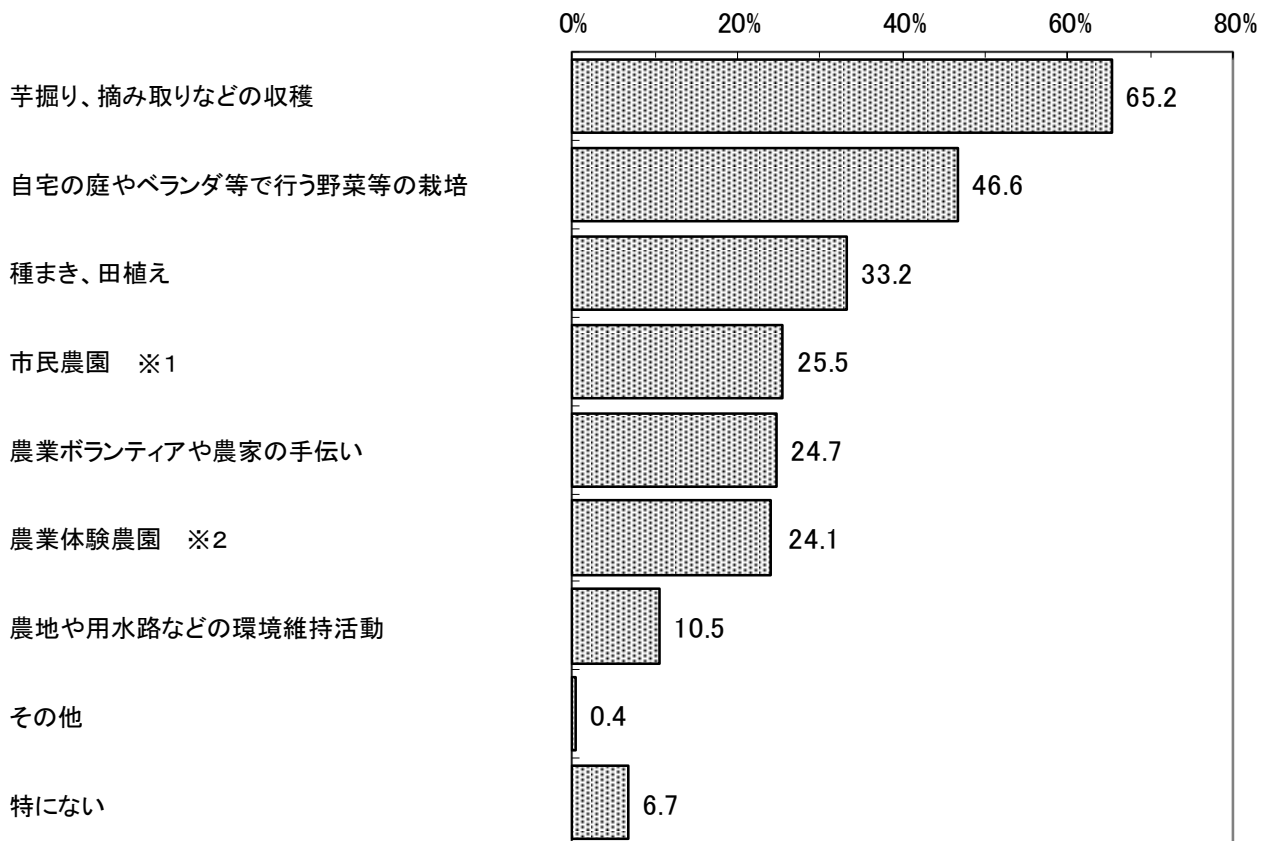


【調査結果の概要】

農作業の体験をどう思うか聞いたところ、「新鮮で安全・安心な農産物が食べたい」(52.2%) が5割を超え最も高く、以下、「緑や土に触れあい、癒しを感じたい」(42.3%)、「子供の食育活動に役立つ」(41.5%) などと続いている。

農作業の体験への参加ニーズ

Q11 農作業の体験に参加するとしたら、どのような体験作業に参加したいですか。次の中からいくつかでも選んでください。
MA (n=494)



※1 市民農園：都市住民が10～20㎡程度に区画分けされた農地を、レクリエーションの場として活用する農園。利用者は、基本的に自由に作物を栽培できる代わりに、苗、種、肥料、農機具等の必要資材は自身で用意する。

※2 農業体験農園：都市住民が30㎡程度の区画において、開設者のきめ細かい指導のもとで農業体験を行う農園のこと。入園料（苗・肥料代、収穫代、講習料など）を支払って、年間のカリキュラムに基づき栽培方法を学びながら指定された作物を栽培・収穫する。

参考【市民農園・農業体験農園のご案内】

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/nougyou/hozen/taiken>



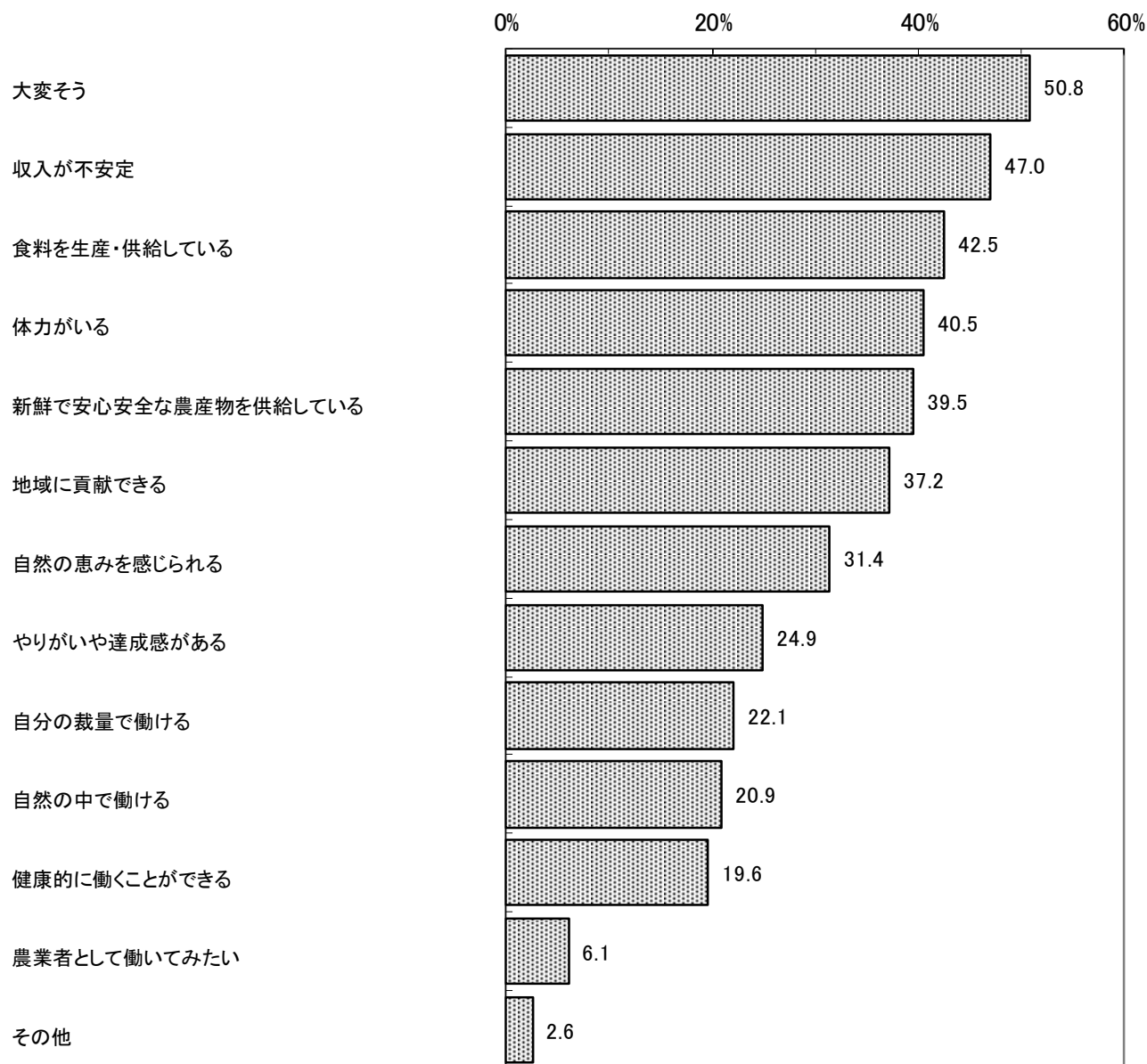
【調査結果の概要】

農作業の体験に参加するとしたら、どのような体験作業に参加したいか聞いたところ、「芋掘り、摘み取りなどの収穫」(65.2%) が6割半ばと最も高く、以下、「自宅の庭やベランダ等で行う野菜等の栽培」(46.6%)、「種まき、田植え」(33.2%) などと続いている。

職業としての東京の農業のイメージ

Q12 職業としての東京の農業について、あなたはどのようなイメージを持っていますか。次の中からいくつか選んでください。

MA (n=494)



【調査結果の概要】

職業としての東京の農業のイメージを聞いたところ、「大変そう」(50.8%)、「収入が不安定」(47.0%)、「食料を生産・供給している」(42.5%) などと続いている。

農業の有する多面的機能について

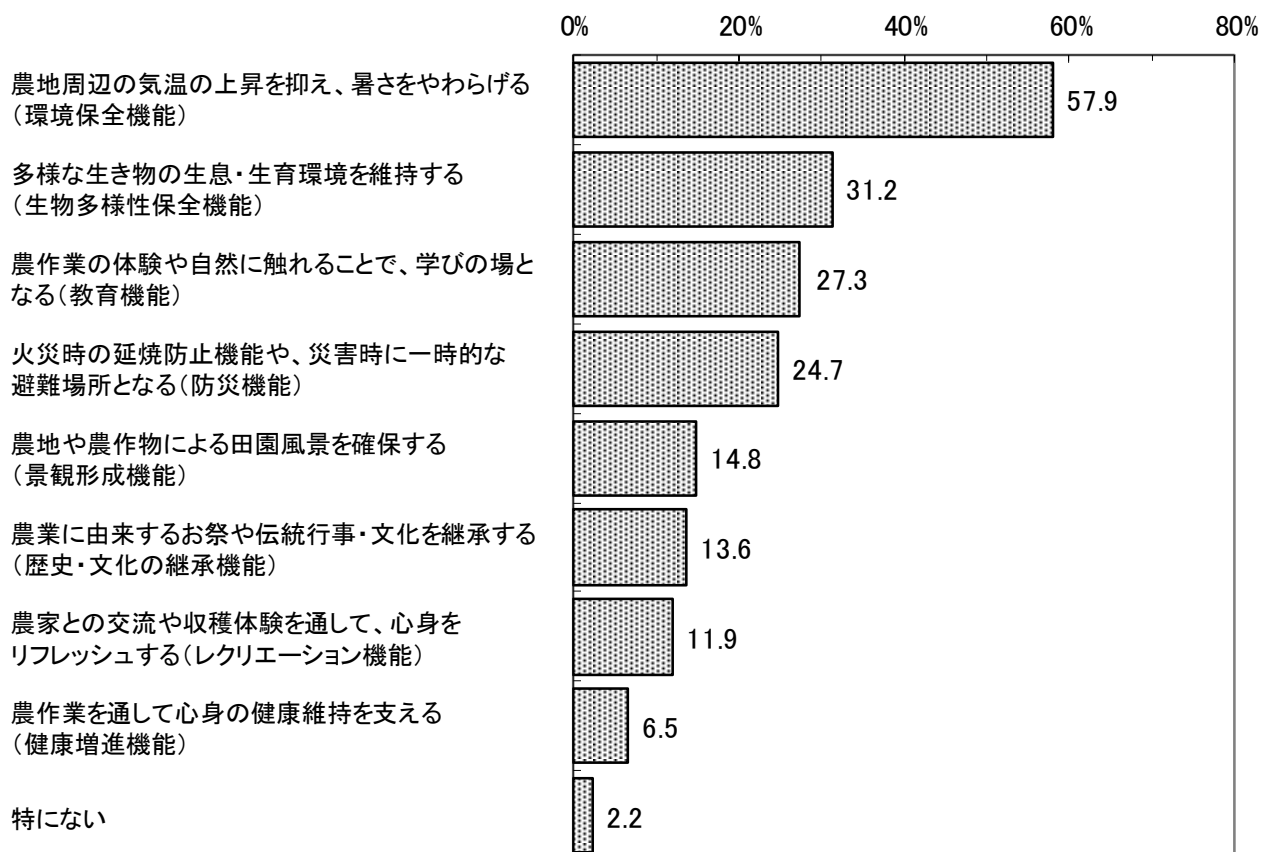
農地は私たちが生きていくのに必要な米や野菜などの生産の場としての役割を果たすと同時に、自然や地域社会を守る大切な働きがあります。

例えば、水田は雨水を一時的に貯留し、洪水や土砂崩れを防いだり、多様な生きものを育みます。また、美しい田園風景は、私たちの心を和ませてくれるなど「農業の有する多面的機能」を持っています。



Q13 農業の有する多面的機能のうち重要だと思うものを、次の中から2つまで選んでください。

2MA (n=494)



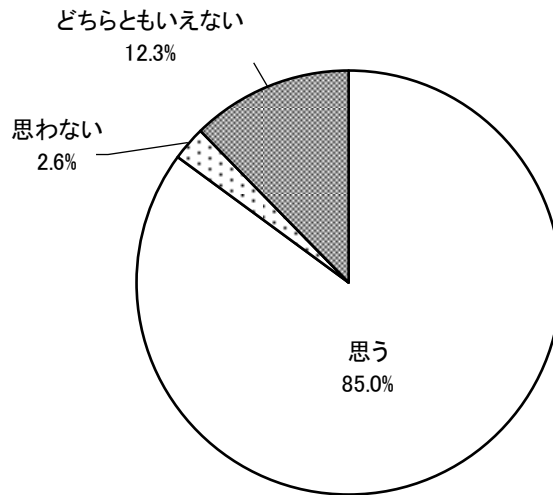
【調査結果の概要】

農業の有する多面的機能のうち重要だと思うものを聞いたところ、「農地周辺の気温の上昇を抑え、暑さをやわらげる (環境保全機能)」(57.9%) が6割近くで最も高く、以下、「多様な生き物の生息・生育環境を維持する (生物多様性保全機能)」(31.2%)、「農作業の体験や自然に触れることで、学びの場となる (教育機能)」(27.3%) などと続いている。

東京の農業・農地についての意向

Q14 東京に農業・農地を残したいと思いますか。

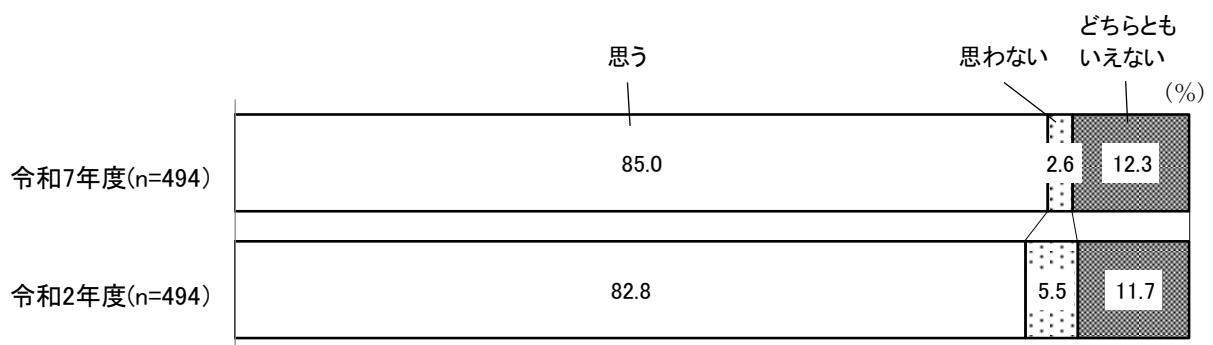
(n=494)



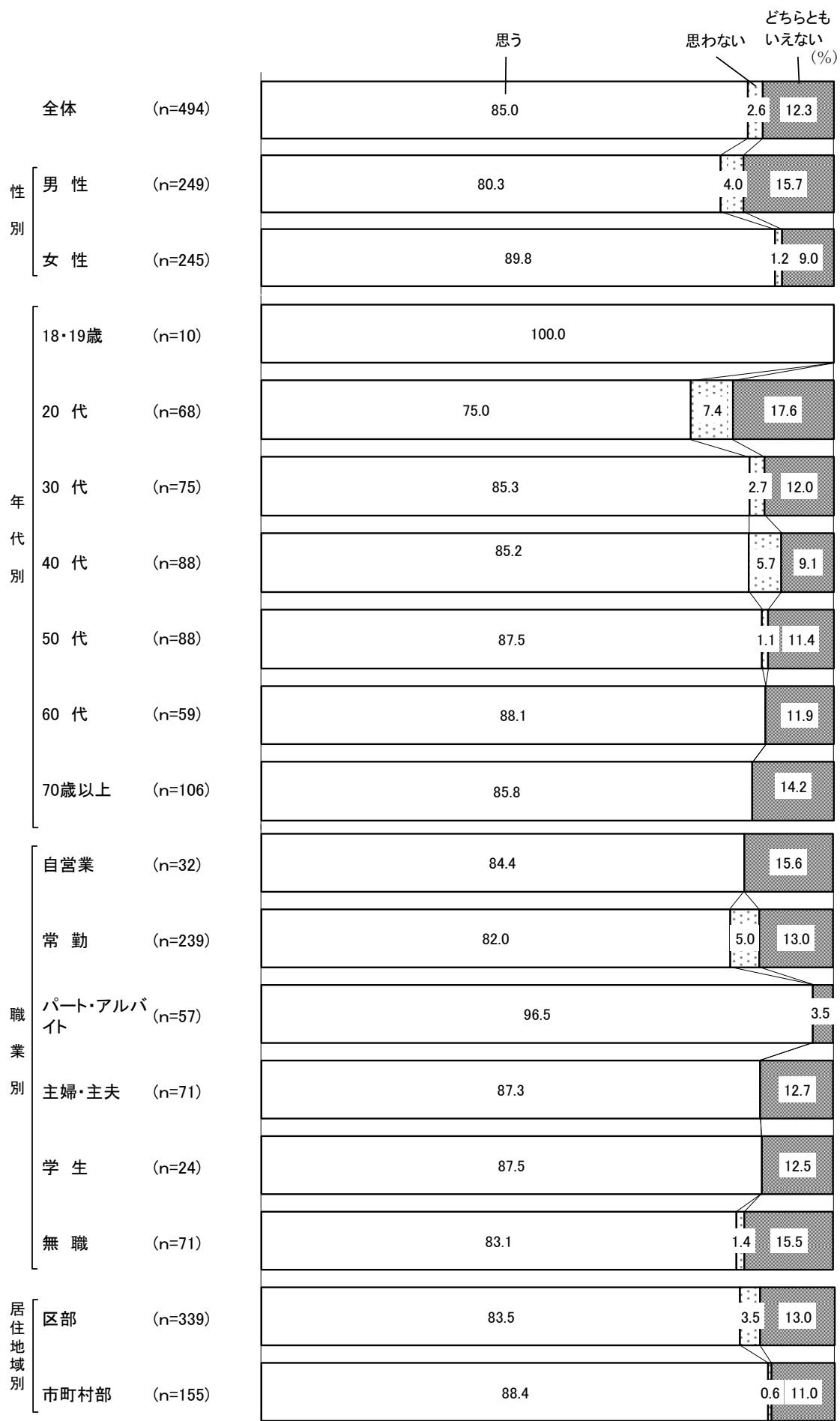
【調査結果の概要】

東京に農業・農地を残したいと思うか聞いたところ、「思う」(85.0%) が8割半ばだった。「どちらともいえない」(12.3%)、「思わない」(2.6%) だった。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>

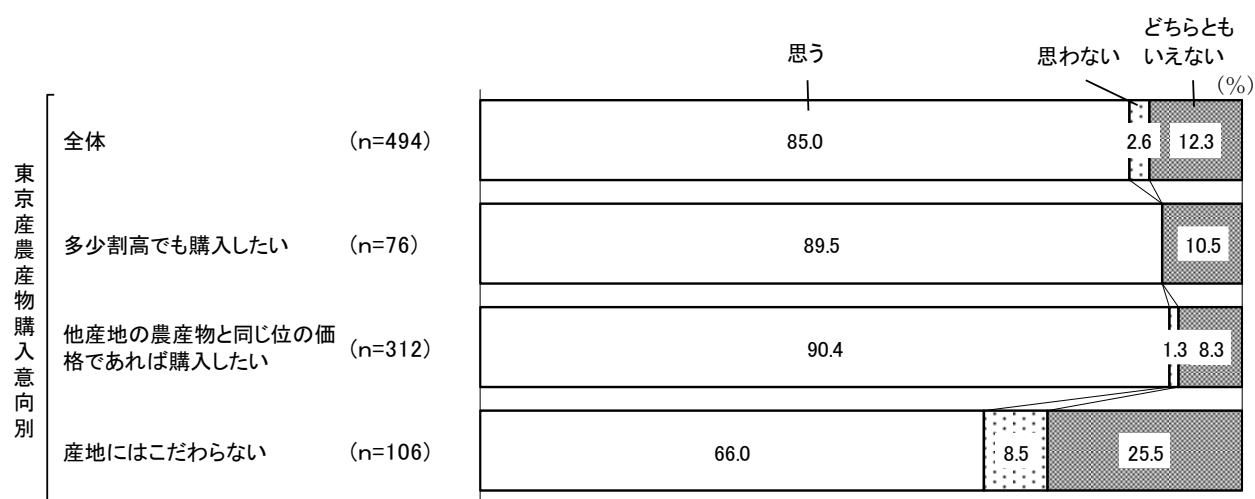


◎東京の農業・農地についての意向（属性別）

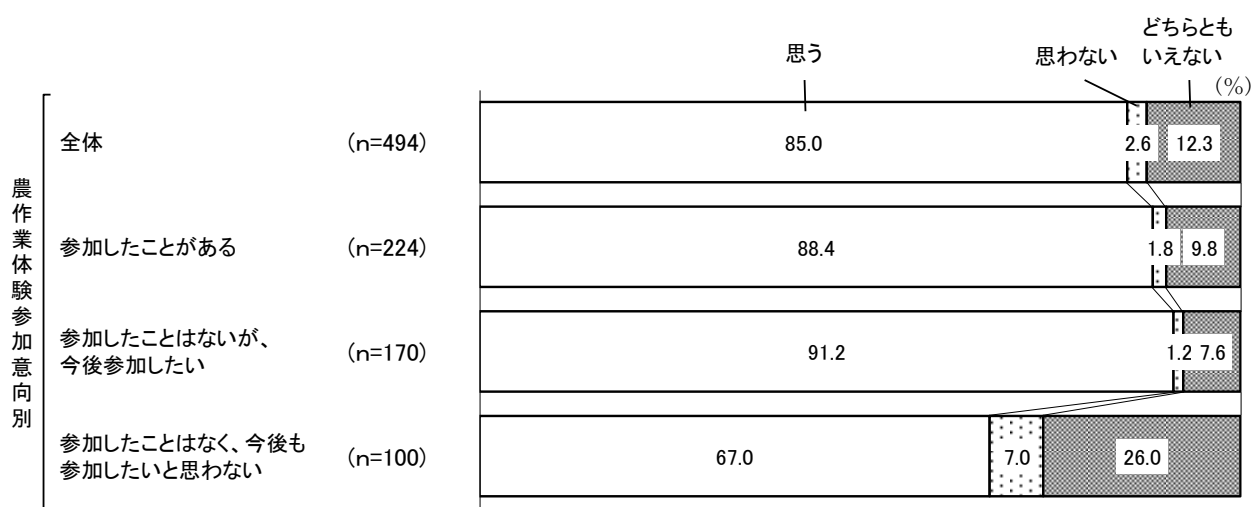


※未回答の選択肢については、0%表示を省略

◎東京の農業・農地についての意向（東京産の農産物の購入意向別：Q 4）



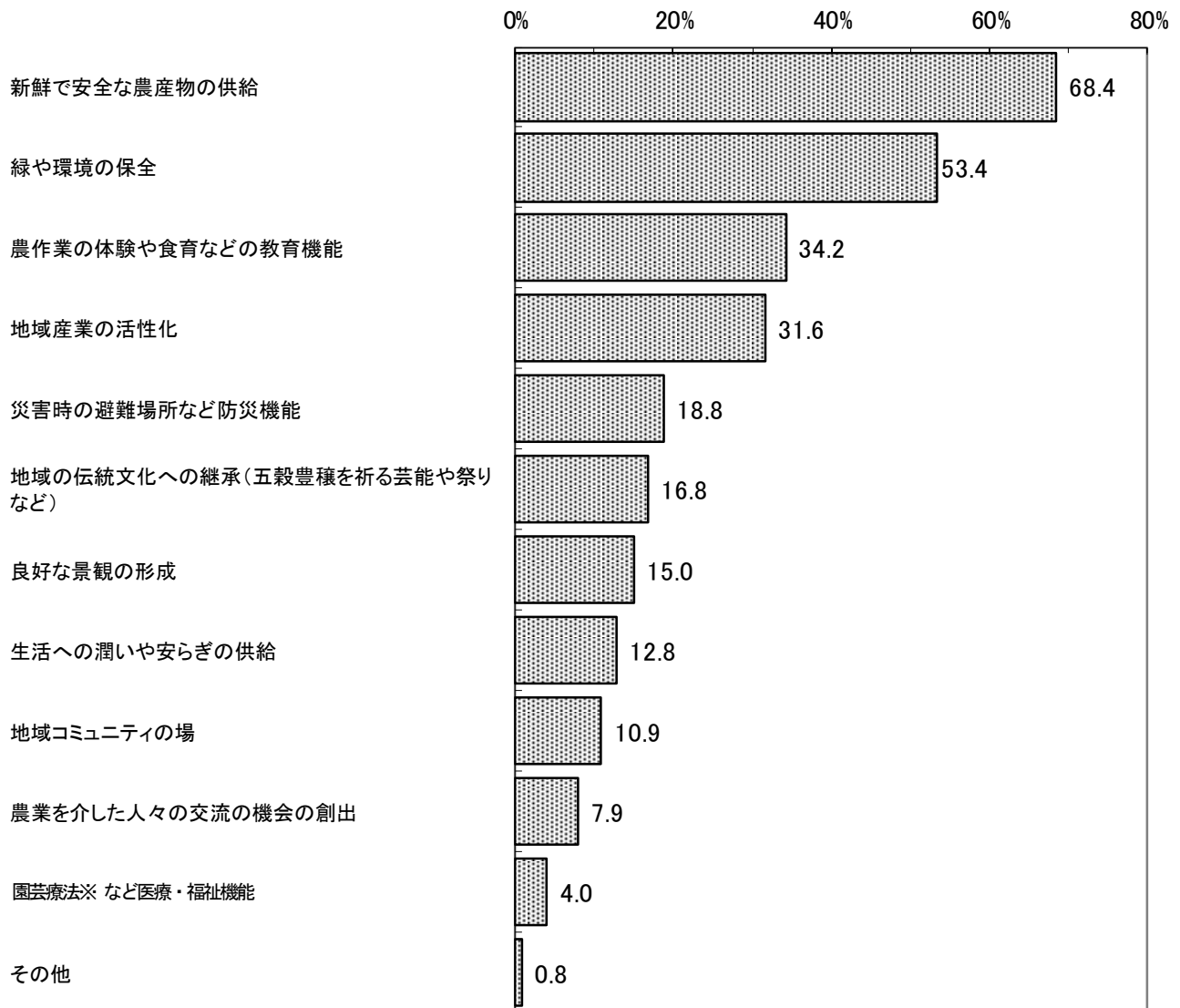
◎東京の農業・農地についての意向（農作業の体験への経験別：Q 9）



東京の農業・農地に期待する役割

Q15 東京の農業や農地に、どのような機能や役割を期待しますか。次の中から3つまで選んでください。

3MA (n=494)

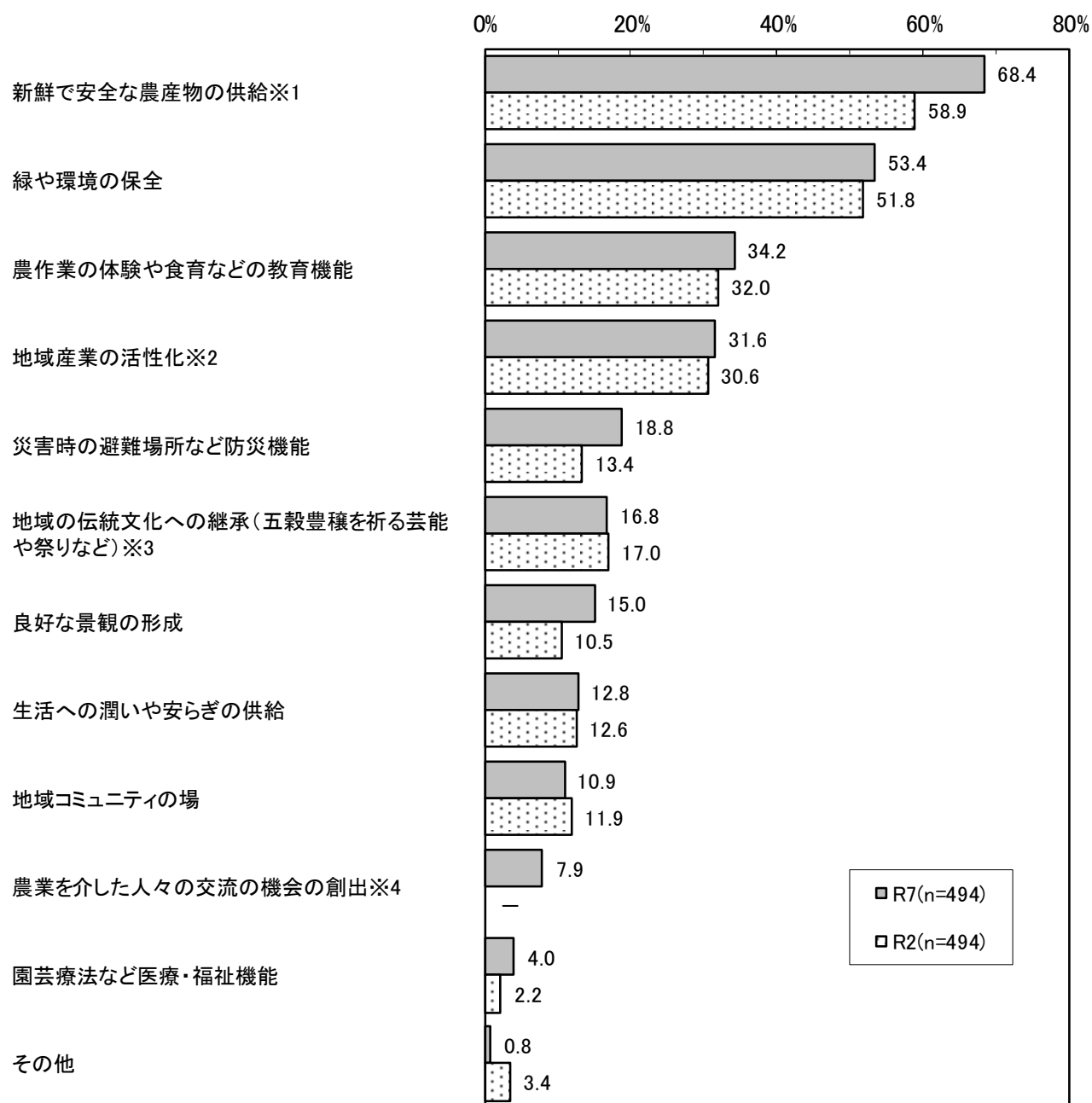


※園芸療法：植物とのかかわりを通じて心や体の健康を促進し、社会生活の質を向上させる療法

【調査結果の概要】

東京の農業や農地にどのような機能や役割を期待するか聞いたところ、「新鮮で安全な農産物の供給」(68.4%)が7割近くで最も高く、以下、「緑や環境の保全」(53.4%)、「農作業の体験や食育などの教育機能」(34.2%)などと続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「新鮮で安全な農畜産物の供給」で集計

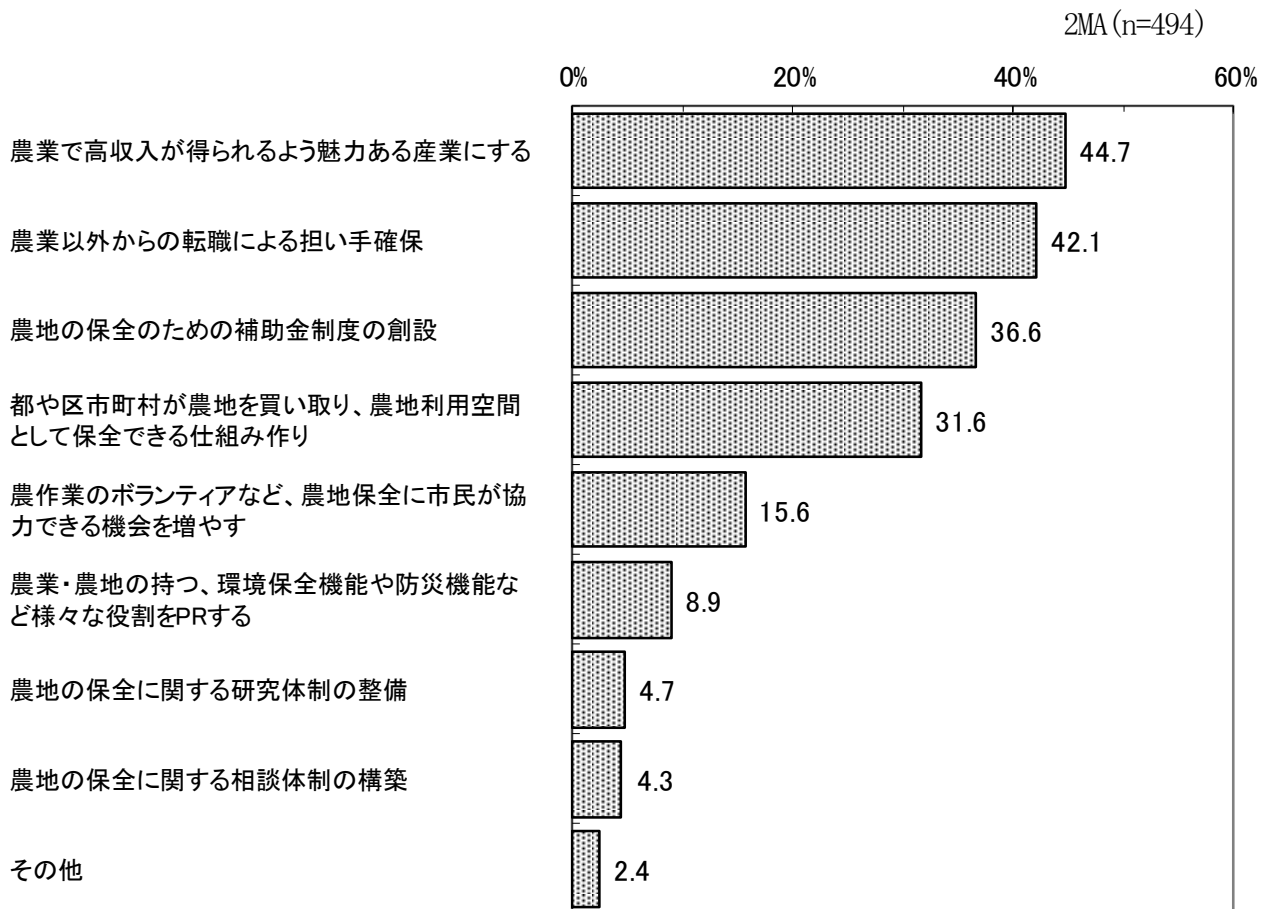
※2 令和2年度は「地域産業の活性化(農業と他産業との連携を含む)」で集計

※3 令和2年度は「地域の伝統・文化の継承」で集計

※4 令和2年度は選択肢なし

東京の農地の保全

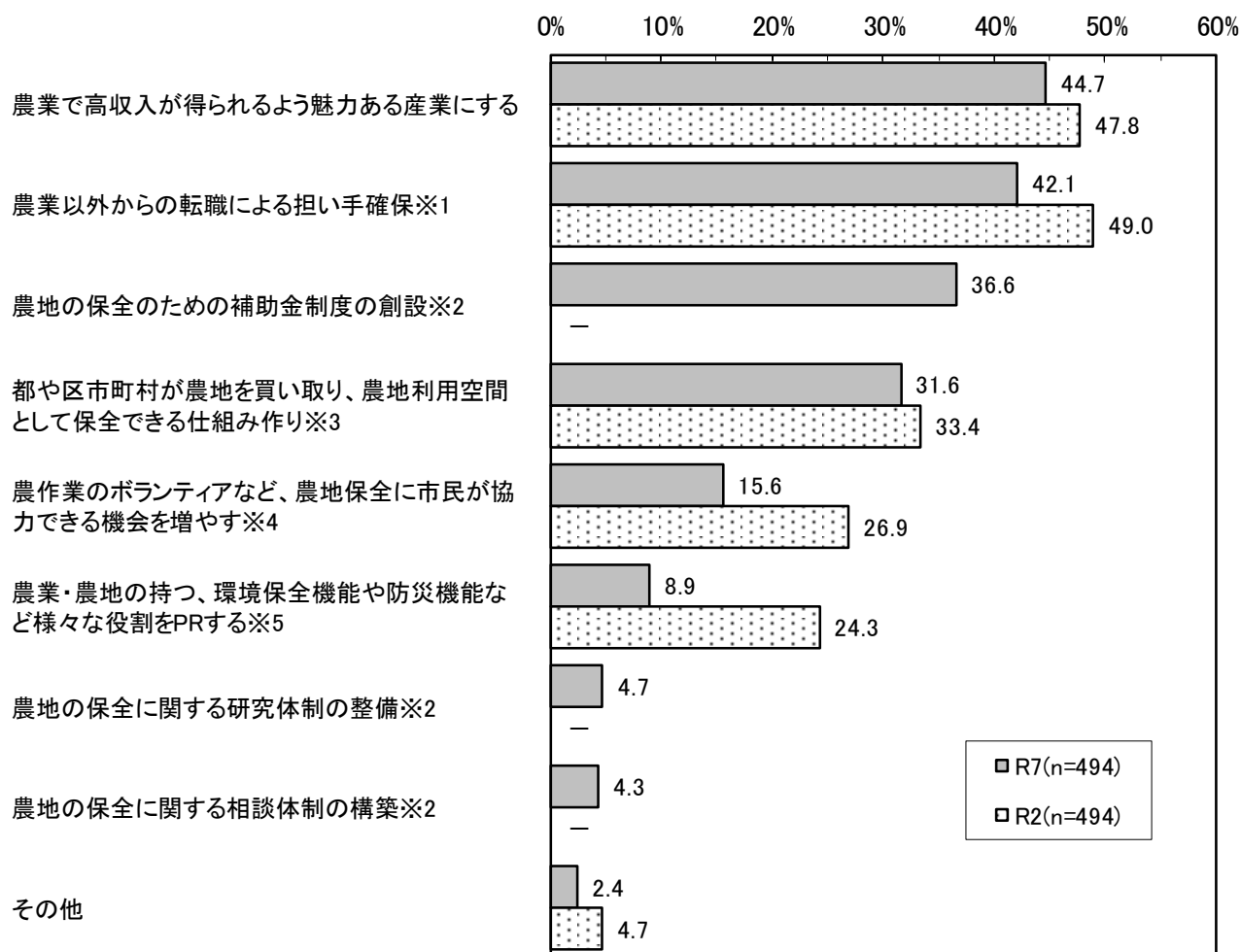
Q16 東京の農地を保全するために、東京都や区市町村がどのような対策を行う必要があると思いますか。次の中から2つまで選んでください。



【調査結果の概要】

東京の農地を保全するために、東京都や区市町村がどのような対策を行う必要があるか聞いたところ、「農業で高収入が得られるよう魅力ある産業にする」(44.7%)、「農業以外からの転職による担い手確保」(42.1%)、「農地の保全のための補助金制度の創設」(36.6%)などと続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「農業以外からの新規参入者などにより担い手を確保する」で集計

※2 令和2年度は選択肢なし

※3 令和2年度は「都や区市町村が買い取るなど農地利用空間として保全できる仕組みをつくる」で集計

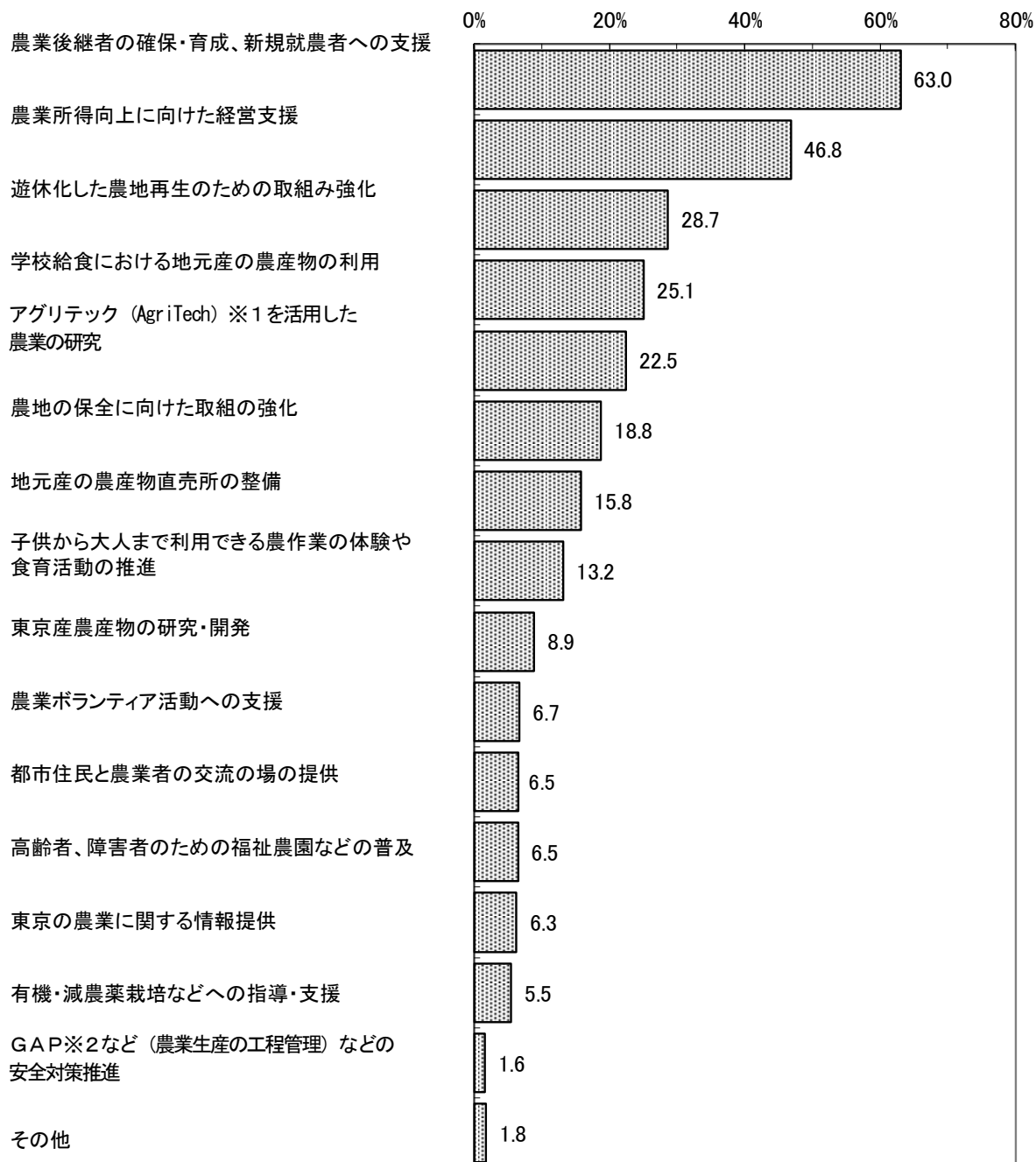
※4 令和2年度は「農作業を手伝うボランティアなど市民が協力できる機会を増やす」で集計

※5 令和2年度は「農業・農地の持つ環境保全や防災等の様々な役割をPRすることにより都民の理解を得る」で集計

東京都の農業振興施策

Q17 東京の農業の振興のために東京都がどのような施策に力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

3MA (n=494)



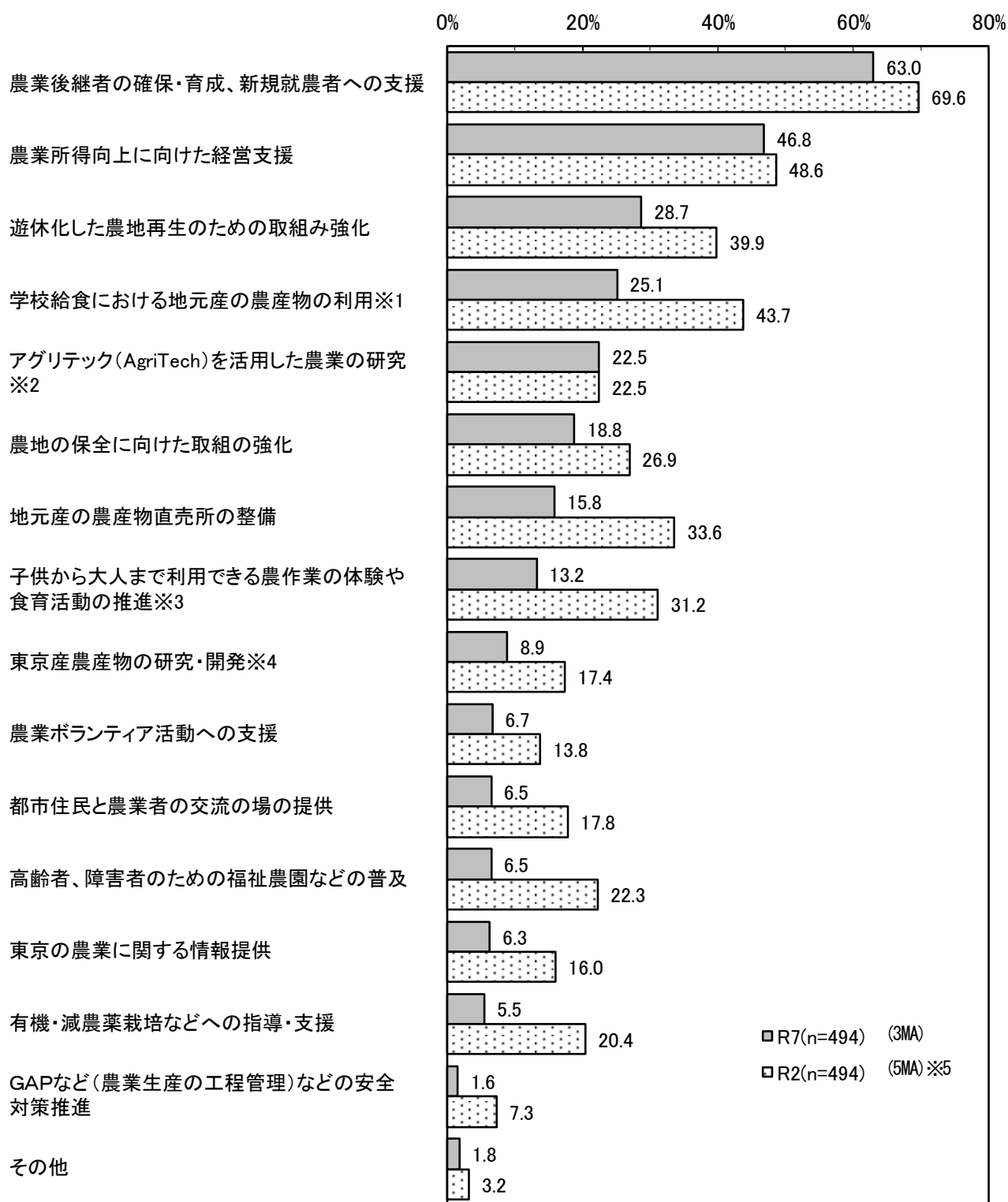
※1 アグリテック (AgriTech) : 農業と技術を組み合わせた言葉で、AI、ロボット等の技術を駆使した新しい農業の形

※2 GAP : GAP (ギャップ) 「Good (良い) Agricultural (農業) を Practice (実践) する」の略。農畜産物を生産する工程で、生産者が守るべき管理基準と、その取り組みのこと。

【調査結果の概要】

東京の農業の振興のために東京都がどのような施策に力を入れるべきか聞いたところ、「農業後継者の確保・育成、新規就農者への支援」(63.0%) が6割を超えて最も高く、以下、「農業所得向上に向けた経営支援」(46.8%)、「遊休化した農地再生のための取組み強化」(28.7%) と続いている。

◎前回調査との比較 <前回：令和2年6月実施「東京の農業・水産業」>



※1 令和2年度は「学校給食での地元産の農産物の使用」で集計

※2 令和2年度は「ICT等最先端技術を活用した農業の研究」で集計

※3 令和2年度は「子供から大人まで利用できる農業体験や食育の推進」で集計

※4 令和2年度は「東京産の農畜産物の研究・開発」で集計

※5 令和2年度は5つまでの選択肢で集計

東京の農業に関する意見（自由意見）

Q18 東京の農業について、意見をご自由にお書きください。（自由意見）

(n=473)

(1) 東京の農業全般	186件
(2) 農業振興のための取組	126件
(3) 東京産の農産物	77件
(4) 農業体験や教育・食育	56件
(5) 広報や情報入手	28件

（主なご意見）

(1) 東京の農業全般 186件

- 農業の担い手が少なくなっているニュースを見て、農業の将来が不安である。
(男性 20代 文京区)
- 東京で農業のイメージはあまりなかったのですが、近くで食料が生産されていると災害時も安心なので重要かと思いました。
(女性 20代 豊島区)
- 副業として農業をやりたいなと思っています。野菜も自然も体を動かすことも全て好きです。
(女性 20代 足立区)
- 安全で新鮮な食材の供給は大都市東京の食の安全保障という観点からも重要と考えている。地方に過度に依存せず、都市開発・発展と均衡をとりながら農業を産業として発展させるべきだと考える。
(男性 20代 国分寺市)
- 都市部でも景観や食育のためにある程度の農地が維持できるように行政やボランティア支援が活性化されると良いと感じます。
(男性 30代 小平市)
- 農地の転用を抑え、できる限り保全される施策をお願いします。
(女性 40代 杉並区)
- 土地が高騰している中で農地を保全する難しさを感じる一方で、農地がなくなること都市機能が低下する事に懸念がある。どちらもバランスが必要だと思う。
(男性 40代 北区)
- 東京に生産地を求めている自分の浅はかさを感じました。副業としての農業を都市型で進めることにより、より食に近づき、人間らしさが都市にいても感じられる、そんな都市がいいなと思っています。
(男性 50代 練馬区)

- 島しょ部や多摩地域の農業を守ってほしいと思います。また、都市部や都市周辺部では、担い手のなくなった土地を市民農園として開放してほしいです。
(女性 50代 町田市)
- 農地をしっかりと残して、伝統野菜を継承していただきたいです。
(男性 60代 江東区)
- このアンケートが送られるまで、東京の農業について考えることも、知識ありませんでした。これを機に東京の農業に目を向けてみようと思います。
(女性 60代 豊島区)
- 無理に農業を続ける必要はないと思うが、農地は環境を良好に維持するために必要な空間だと思う。農地が相続等で維持できない場合に環境保全できるような諸策が必要だと思う。
(男性 70 歳以上 目黒区)
- 自宅近くの農地で販売している野菜を使っています。だんだん宅地が増えており、以前より農地が減っているのが気になりますが、後継者不足だろうかと考えています。行政が提案し、組織的に農業が経営できるシステムになれば、個別の農家の負担が減るのではないかと思います。
(女性 70歳以上 西東京市)

(2) 農業振興のための取組 126件

- 現在は農業に対して、収入が不安定であるなどのイメージが強く、なかなか将来の職種の選択肢として外されてしまいがちである。最近は職業に対して安定を求める傾向も強いと感じるため、そういった制度を充実させ、強く推していくことが必要だと感じる。
(女性 10代 稲城市)
- 農業に関心はあっても、収入面や天候などの不安から一歩踏み出せない方は多いと思います。だからこそ、自治体や行政が全面的にサポートする体制が必要だと考えます。
(男性 20代 杉並区)
- 東京に農業のイメージはないが、逆に新鮮さがあると言える。東京の持つ未来的な魅力と結びつくような新しい農業、飲食産業を推進すべき。
(男性 30代 港区)
- 農業は大変そうというイメージが強く、また東京で農業をすることはよりハードな気がするが、やりたい人がやり続けられるようにソフト面、ハード面で整備してあげられると良いと思う。
(女性 30代 町田市)

- 野菜を購入するとき、産地や鮮度をみます。もし東京の野菜が店頭に並ぶとしたらコスト面や輸送時間が低く短くなることを考え、低価格で新鮮な野菜が手に入ることを期待します。
また、東京で農業をする場合、農家は他の仕事と掛け持ちできるよう、AIなどを活用し効率化を図れば、収入面での課題がなくなるのではと思います。

(女性 40代 大田区)

- 農家の収入が確保できる仕組みのために、効率化や高価値化に取り組む必要がある。

(男性 40代 府中市)

- 文化的な生活が送れる前提として「食」があり、食料自給率の向上など基盤を強化していくことは喫緊の課題かと考える。農業に従事することで生活も保障されるような仕組みをつくり、安定した食料供給がされる東京都となしてほしい。

(男性 50代 三鷹市)

- 農業は担い手が高齢化していて、作る人が減少していることが気になっています。そのためには農家の最低所得を支援し、気候不良による不作が起きた際に、農家が困らないようにすべきだと思います。

(女性 70歳以上 江東区)

(3) 東京産の農産物 77件

- 東京と農業は、距離のあるものと思っていました。アンケートを通して、しゃもやウドなど、東京産の食材があると知りびっくりです。今度スーパーで見かけたら、調理してみようと思います。

(女性 20代 墨田区)

- 小学生の時の給食によく小松菜が出ていたため、小松菜が足立区の名産品と知ることができました。その地域の名産を知することは、農業への親しみだけでなくその地域への理解、帰属意識にもつながることだと思います。

(男性 20代 足立区)

- できれば東京産のものを食べたいと感じているが、農地が少ない為 現状は地方のものを食べる機会が多い。地産地消を目指して、東京の農業地をこれから増やしていき、農業に携わりたいと思える環境づくりに期待したいと思う。

(女性 40代 足立区)

- 消費者側からすると、近郊で作られた農作物ほど輸送距離が短い＝新鮮である、ということだと思うので、東京産の農作物にはとても魅力を感じています。

(女性 50代 中央区)

- いつも買うたびに、地産地消による鮮度は間違いによいと感じます。そして採りたては美味しいです。「作るところで売って、消費して」という全てを活性化していったいです。

(男性 50代 多摩市)

- 中学まで生活した〇〇市には畑があり、知り合いに農家がありました。現在も農業を行っていますが、ご苦労が絶えない様です。行政の支援を期待します。奥多摩のワサビ、青梅市瑞穂町の狭山茶、美味しくいただいています。

(男性 60代 福生市)

- 立川の農業は元気に活動しているように感じています。学校給食に可能な限り低農薬で生産された地元産の野菜や米を使って欲しいと思います。

(女性 70歳以上 立川市)

(4) 農業体験や教育・食育 56件

- 東京の農作物を小学校の給食で食べたり飲んだりした記憶は今でも鮮明で、給食を通して東京の農業の現状を学習し、今はスーパーマーケットや都下の無人販売所などで野菜を購入することもある。昨今のような酷暑での農業の厳しさや人手不足を考えると、地方の産地のような大規模農業や安定した生産は難しいだろうと思うが、これからも東京の農業の持続のために微力ながら支援していきたい。

(女性 10代 杉並区)

- 意外と、知らない東京の農作物がたくさんあり驚きました。平日は仕事をしていますが、休日に都内で農業ボランティアができるイベントがあれば、参加してみたいと思いました。農業は、私たちの生活にとって欠かせない「食」を支える大事な産業だと思います。自分が農業をすることは、少しハードルが高いですが、いろいろな形で支えていきたいと思います。自分にできる支え方があれば、もっと知ってみたいです。

(女性 20代 大田区)

- 東京、特に23区は農業を確保する土地も少ないと思われる。ただ農作物は我々の生活にとって欠かせないものである。また、地元の農作物は環境的、経済的にも必要不可欠である。そのため、農業に対する支援、効率化、農業の担い手確保など取り組まないといけない課題は多い。これらの課題と共に学校での体験や教育も必要不可欠であると考える。

(男性 20代 板橋区)

- 農地が減少している中で、多くの都民の方々に農地や農業の普及を広めるイベントや農業体験の場を提供してもらおう。多くの都民のみなさんに農地の耕し方や育成方法を教えてもらいたい。そしてコンクールなどを催して農業の発展を後押しする。

(男性 70歳以上 中央区)

(5) 広報や情報入手 28件

- 一年中、簡単に遊びに行けるような農業のスポットができれば話題になると思いました。農業＝職業のひとつではなく、全員にとって簡単に関わることという認識を持ってもらえらると思います。

(女性 20代 太田区)

- 環境問題の改善や災害時の避難場所などの観点があるとは考えてもいなく、目からウロコでした。東京の農業の維持、継続が大変重要だと感じました。都民にこのことをもっとPRするとともに東京産ブランドの強化に努めるのが良いと思います。

(男性 50代 杉並区)

- 農業の大切さや大変なお仕事であることの理解を深められるような農業体験やイベントを行い、多くの人に大切さを分かってもらう事を推進して欲しいと思います。

(女性 60代 葛飾区)

- 東京産の作物・果物等は種類が限定され、販売場所も少ないので人々に広く知られておらず、味わう機会が限られると思います。このため、広報、各種イベント会場等での認知度アップや都心の公共施設を活用して販売場所を増やすことで馴染みあるものに繋がると思います。

(男性 70歳以上 江戸川区)